



Toolkit ユーザーマニュアル



Hier klicken, um eine aktuelle Online-Version
dieses Dokuments aufzurufen. Auch finden Sie hier die aktuellsten Inhalte sowie erweiterbare
Illustrationen, eine übersichtlichere Navigation sowie Suchfunktionen.

Contents

1	Toolkitの使用開始	6
	システム要件	7
	Toolkitのダウンロードとインストール	7
	Toolkitを開きます。	7
2	ナビゲーション	9
	ホーム画面	9
	以前のバージョンのToolkit	11
3	ミラーリング動作	12
	ミラーフォルダの場所	12
	ミラーリング計画	12
	• 簡単設定	12
	• カスタム設定	13
	• ミラーフォルダへのファイルの追加	13
	ミラーリング計画の一時停止/再開	13
	コンピュータ・フォルダの内容を表示	14
	ドライブ・フォルダの内容を表示	14
	ミラーリング計画の編集	14
	ミラーリング計画の削除	15
	レポートの表示	15
	以前のバージョンのToolkit (Windows 7、8、8.1)	15
	Toolkitのミラーリングについてのよくある質問	15
4	バックアップ動作 (Windowsのみ)	16
	ファイルのタイプと手順	16
	• バックアップ・ファイルの保存場所の設定	16
	• アーカイブ・ファイルの表示	17
	クイックバックアップの設定	17
	カスタム・バックアップ計画の作成	17
	バックアップ計画の設定	17
	• 手順1: コンテンツの選択	18
	• 基本	18
	• 詳細	18
	• 手順2: バックアップ先ドライブの選択	19
	• 手順3: バックアップのスケジュール設定	19
	バックアップ計画の一時停止/再開	19
	バックアップ計画の編集	19
	バックアップ計画の削除	20
	レポートの表示	20
	以前のバージョンのToolkit (Windows 7、8、8.1)	20
	Toolkitのバックアップについてのよくある質問	20
5	復元操作 (Windowsのみ)	21

6 Sync Plus動作	22
クイック同期の設定	22
カスタムSync Plus計画の作成	23
Sync Plus計画の一時停止/再開	24
同期済みフォルダとアーカイブの表示	24
Sync Plus計画の編集	24
ファイルの復元	25
Sync Plus計画の削除	25
同期から除外されるファイルとフォルダ	25
以前のバージョンのToolkit (Windows 7、8、8.1)	25
7 Seagate Secure	26
Toolkitによるセキュリティの有効化	26
• パスワードリセットキーの設定 (オプション)	28
ドライブのロック解除	28
• Toolkitを使ったパスワードの入力	28
• Unlock Driveアプリを使ったパスワードの入力	29
• パスワード入力の試行回数の上限を超えた場合	29
ドライブのロック	30
パスワードの変更	30
パスワード・リセット・キーの設定	30
• 要件	31
• セキュリティを有効化した後のパスワードリセットキーの設定	31
パスワード・リセット・キーの使用	32
信頼済みのコンピュータ	32
• 信頼済みのコンピュータのステータスの削除	33
マルチユーザー・アクセス	33
• 二人目のユーザーの編集	35
• 二人目のユーザーの無効化	35
• 二人目のユーザーの削除	36
セキュリティの無効化	36
セキュリティの再有効化	36
ドライブの暗号消去	37
ドライブを工場出荷時の設定にリセットする	37
以前のバージョンのToolkit (Windows 7、8、8.1)	38
8 インポート	39
Import (インポート) 機能のインストール	39
メモ리카ードからのインポート	39
•メモ리카ードのインポートの有効化/無効化	40
•メモ리카ードの増分インポートの有効化/無効化	40
USBデバイスからのインポート	40
• USBデバイスのインポート・プロンプトの有効化/無効化	41
インポート済みのファイルの保存場所	41
フォルダの命名規則	41
Toolkitのインポートに関するよくある質問	42
• 質問: インポート機能では、ドライブへのインポートが完了したら、メモ리카ードの中身は消えるのですか?	42
• 質問: 外付けのカードリーダーでもインポートを使えますか?	42
9 RAIDセットアップ	43

RAIDの説明	43
• RAIDとデータ保護	44
ToolkitによるRAIDレベルとフォーマットの設定	44
10 .RGBとステータスLEDの管理	46
ステータスLEDの無効化/有効化	46
RGB照明パターンの編集	47
• RGB動作へのアクセス	47
• RGB照明の設定	47
• Razer Synapse 3アプリを経由したRazer Chroma (Windowsのみ)	47
• Razer Chromaの要件	47
• Razer Chromaの使用	48
• FireCuda RGBアプリ	48
• LED設定の編集	48
• パターンを選択	49
• アニメーションを選択	49
• 選択したパターン/アニメーションのプレビュー	51
• 表示時間のコントロール	52
• 色を変更	53
• 単色のプリセットアニメーション	53
• 単色およびレインボーのカスタムアニメーション	53
• グローバル設定を変更	54
11 .ドライブのステータス	55
ドライブの故障	55
ドライブ容量オーバー	55
ロック済みドライブ	55
ロック解除済みドライブ	56
読み取り可能なボリュームなし	56
読み取り専用	56
セキュリティ・ロックアウト	57
ストレージ・プール・デバイス	57
Time Machine	57
12 .設定	58
Toolkitアプリの設定	58
インポートの設定	58
Toolkitのアップデート	59
情報	59
13 .最適化	60
ファイル・システム・フォーマットについて	60
Toolkitによる最適化	60
14 .ToolkitおよびThunderboltデジター・チェーン接続	62

Toolkitの使用開始

Toolkitは、ファイルのバックアップ、セキュリティ管理などの使いやすいツールで、ストレージ・ソリューションを最大限活用できるようサポートします。Toolkitの動作と機能には以下が含まれます。

	<p>自動バックアップでデータを保護する。 コンピュータのフォルダをドライブにミラーリングすることで、常に両方の場所にファイルがある状態を保つ。</p>
	<p>SeagateとLaCieの自己暗号化ドライブのセキュリティ管理を行う。 Toolkitを使って、セキュリティを有効化し、パスワードを作成することで、Seagate Secure AES 256ビット暗号化技術でデータを確実に保護する。</p>
	<p>RAID設定。 Toolkitを使用すれば、SeagateとLaCieの対応デュアル・ドライブ・デバイス向けにRAIDの初期レベルとフォーマットを簡単に設定することができます。</p>
	<p>メモ리카ードからすばやくファイルをインポートできます。 ドライブの内蔵カードリーダーにメモ리카ードを差し込むだけで、Toolkitが自動的にファイルをドライブにコピーするため、フォルダを開いてファイルをドラッグする必要がありません。</p>



Toolkitの動作と機能の中には、SeagateとLaCieの対応ドライブでしかご使用いただけないものもあります。特定の動作や機能に対応しているドライブについては、本ユーザーマニュアルの該当する章をご参照ください。

システム要件

「[Seagateのハードウェアとソフトウェアのオペレーティング・システム要件](#)」をクリックしてご覧ください。

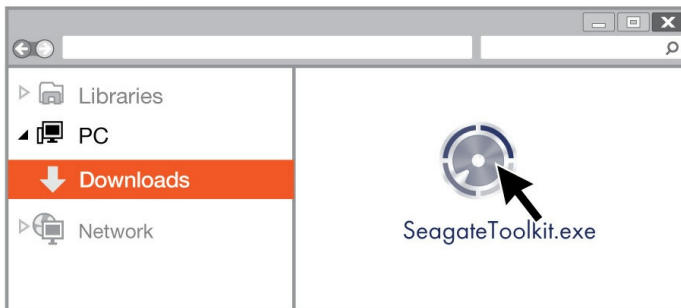
Toolkitのダウンロードとインストール



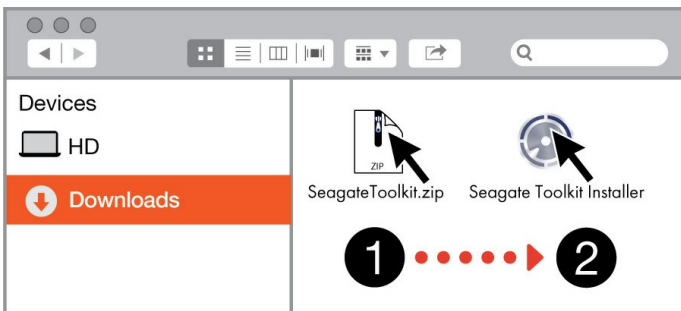
Toolkitのインストールおよび実行にはインターネット接続が必要です。

1. [Seagate Toolkitサポート・ページ](#)をクリックして開きます。
2. [ダウンロード]のセクションまでスクロールダウンします。
 - Windows - [Windows用Seagate Toolkit](#)のリンクをクリックします。
 - Mac - [macOS用Seagate Toolkit](#)のリンクをクリックします。
3. ファイルエクスプローラやFinderなどのファイルマネージャーを使って、ダウンロードしたフォルダを開きます。

Windows®



Mac®



- Windows - [SeagateToolkit.exe](#)ファイルをクリックして、アプリケーションを起動します。
- Mac - [SeagateToolkit.zip](#)ファイルを開きます。 [Seagate Toolkit Installer](#) (Seagate Toolkitインストーラ)をクリックしてアプリケーションを起動します。

Toolkitを開きます。

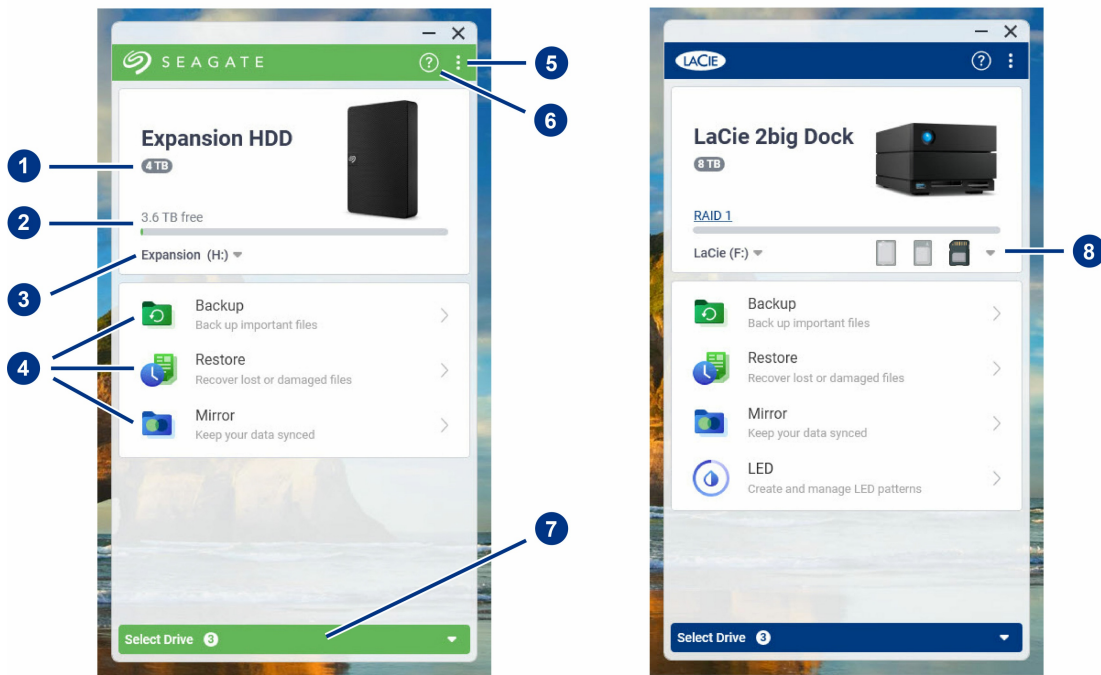
以下のいずれかの方法でToolkitを開きます。

 Windows	<ul style="list-style-type: none">• デスクトップ上のToolkitのアイコンをダブルクリックします。タスクバーにToolkitのアイコンを追加しておくと簡単にアクセスできます。• Windows検索をクリックして、「Toolkit」と入力して、アプリを選択します。• [スタート]メニューをクリックして、メニューから Toolkit を選択します。
 Mac	<ul style="list-style-type: none">• スポットライトバーをクリックして、「Toolkit」と入力して、アプリを選択します。• Finderを使って、[アプリケーション]フォルダを開き、Toolkit をダブルクリックします。

ナビゲーション

ホーム画面

ホーム画面では、ドライブの状態の表示、Toolkitの動作の設定、ボリュームの安全な取り出しなどを行えます。

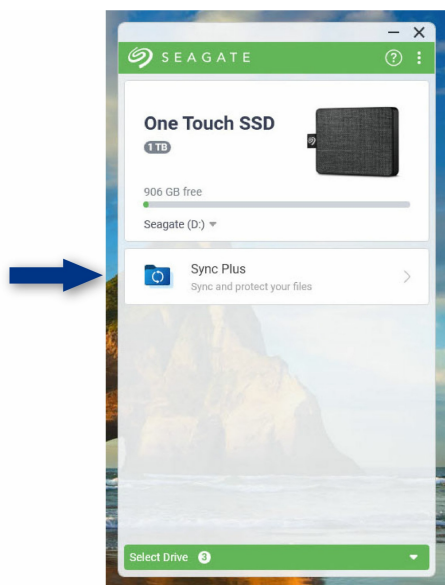


1. **Drive capacity** (ドライブ容量) - ドライブのストレージ容量を表示できます。
2. **Available capacity** (使用可能な容量) - 使用可能なストレージ容量を表示できます。
3. **View volumes/eject** (ボリュームの表示/取り出し) - ドライブ上のボリュームの表示や、ボリュームの安全な取り出しを行えます。
4. **動作** - クリックすると動作の設定や編集を行えます。
5. **詳細** - このアイコンをクリックすると設定を変更したりToolkitを終了したりできます。
6. **ヘルプ** - このアイコンをクリックすると、ドライブに関するヘルプを表示できます。
7. **Select drive** (ドライブの選択) - クリックすると、別のドライブを選択できます (複数のドライブが接続されている場合)。
8. **View storage cards/eject** (ストレージ・カードの表示/取り出し) - (カード・スロットがあるドライブのみ) クリックすると、挿入したストレージ・カードの情報の表示や、ストレージ・カードの安全な取り出しを行えます。

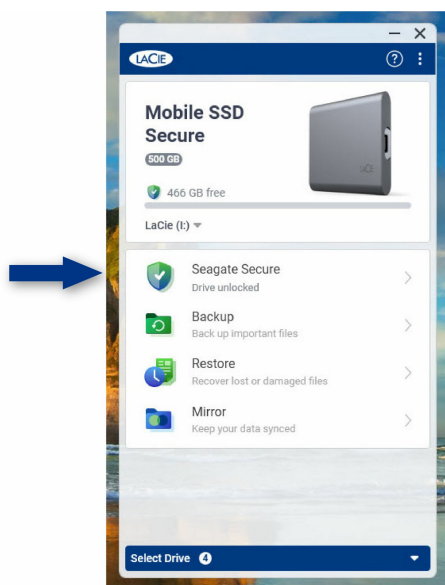
SeagateまたはLaCieドライブのモデルによって、Toolkitに表示される動作は異なります。ドライブによっては、(上の画像のように)以下の動作が表示される場合もあります。

- **Mirror** (ミラーリング)
- **Backup** (バックアップ) (Windowsのみ)
- **Restore** (復元) (Windowsのみ)

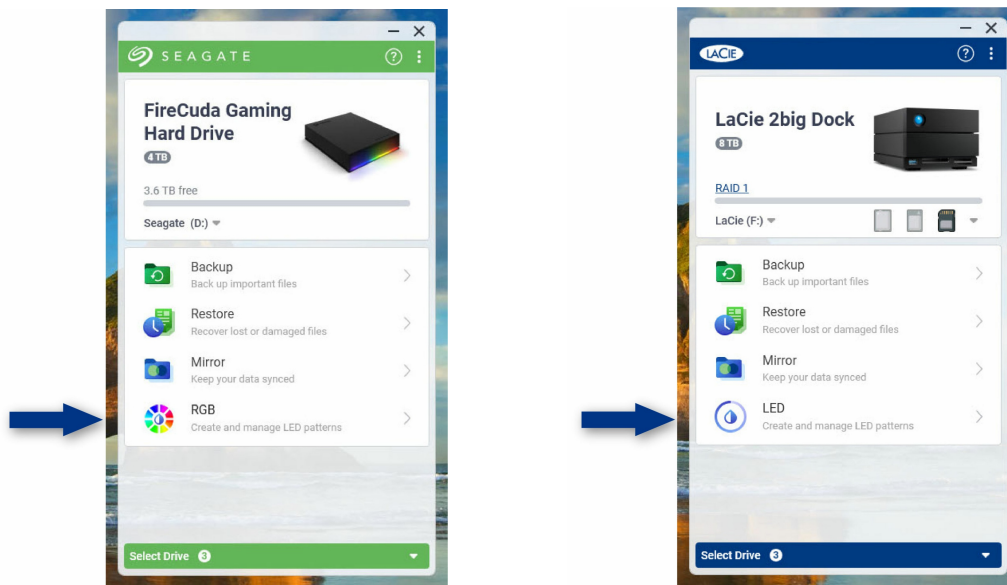
一部のSeagateおよびLaCieモデルは、バックアップ/復元/ミラーリングの代わりに、[Sync Plus](#)に対応しています。



SeagateおよびLaCieの自己暗号化ドライブ (SED) には、[Seagate Secure](#)の動作も含まれます。

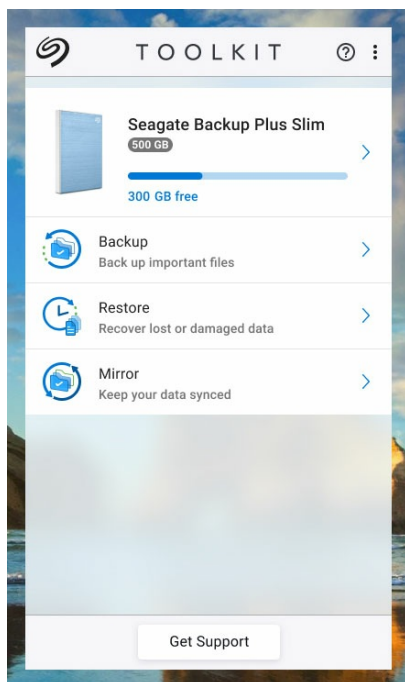


カスタマイズ可能なLED搭載のドライブには、[RGBまたはLED](#)の動作もあります。



以前のバージョンのToolkit

以前にToolkitをインストールして、アプリの更新を最近行っていない場合は、ホーム画面の表示が異なる場合があります。



Toolkitの現在および以前のバージョンを使用した動作の管理の詳細については、このマニュアルの動作の章を参照してください。

ミラーリング動作

Mirror（ミラーリング）動作を行うと、ストレージデバイスと同期しているPCまたはMacでミラーフォルダを作成することができます。フォルダ内でファイルの追加、編集、または削除を行うと、Toolkitがその変更をもう一方のフォルダに自動で反映します。



このユーザ・マニュアルの手順は、最新バージョンのToolkitを使用するユーザを対象にしています。以前のバージョンのToolkitは、ユーザ・インターフェイスがやや異なる場合があります。「[以前のバージョンのToolkit \(Windows 7、8、8.1\)](#)」を参照してください。

ミラーフォルダの場所

ミラーフォルダを設定する際、ミラーフォルダの保存場所として、PCまたはMac上の場所を指定することができます。場所を指定しない場合、ミラーフォルダはユーザーフォルダのルートに配置されます。

Toolkitは、外付けドライブに対応するミラーフォルダを作成します。Windows PCの場合、ミラーフォルダは以下の場所にあります：

X:\Toolkit\Mirror\



Xは、コンピュータが外付けドライブに割り当てたドライブ・レターを表します。ドライブ・レターはドライブによって異なり、コンピュータに接続されているドライブの台数によって変わることがあります。

Toolkitは以下の場所にミラーフォルダを作成します：

名前\Toolkit\Mirror\



名前は外付けドライブに割り当てられた名前を表します。

ミラーリング計画

簡単設定

Toolkitを使うと、コンピュータのユーザーフォルダに簡単にミラーフォルダを設定できます。

1. Toolkitを開きます。
2. メインメニューで **[Mirror (ミラーリング)]** 動作をクリックします。
3. **[Mirror Now (今すぐミラーリング)]** をクリックします。

Toolkitが以下を実行します：

- コンピュータのユーザーフォルダに「Mirror」という名前のフォルダを追加します。
- ストレージ・デバイスに「Mirror」という名前のフォルダを追加します。デフォルトの場所は Toolkit フォルダです。

カスタム設定

カスタム設定では、コンピュータ上でミラーフォルダの場所を選択することができます。

1. Toolkitを開きます。
2. メインメニューで **[Mirror (ミラーリング)]** 動作をクリックします。
3. **[Custom (カスタム)]** をクリックします。
4. ミラーフォルダを作成するコンピュータ上の場所を選択します。
5. **[Create (作成)]** をクリックします。

Toolkitが以下を実行します：

- コンピュータ上の選択した場所に「Mirror」という名前のフォルダを追加します。
- ストレージ・デバイスに「Mirror」という名前のフォルダを追加します。デフォルトの場所は Toolkit フォルダです。

ミラーフォルダへのファイルの追加

ファイルを追加するには、いずれかのミラーフォルダにファイルをドラッグします。ミラーフォルダ内でファイルの追加、編集、または削除を行うと、Toolkitがその変更をもう一方のミラーフォルダに自動で反映します。

- ! 同期するためには、各ミラーフォルダに「Mirror」という名前を付ける必要があります。ファイル名は変更しないでください。

ミラーリング計画の一時停止/再開

ミラーリング計画を一時停止するには、以下を実行します。

1. Toolkitを開きます。
2. メイン・メニューの **[Mirror (ミラーリング)]** 動作で **[Pause (一時停止)]** アイコンをクリックします。

または、[Mirror (ミラーリング)] 動作をクリックして [Mirror (ミラーリング)] 画面に移動し、[Pause (一時停止)] をクリックします。

ミラーリング計画を再開するには、以下を実行します。

1. Toolkitを開きます。
2. メイン・メニューの [Mirror (ミラーリング)] 動作で [Play (開始)] アイコンをクリックします。

または、[Mirror (ミラーリング)] 動作をクリックして [Mirror (ミラーリング)] 画面に移動し、[Resume (再開)] をクリックします。

コンピュータ・フォルダの内容を表示

コンピュータ上のミラー・フォルダの内容を表示するには、次の手順を実行します。

1. Toolkitを開きます。
2. メインメニューで [Mirror (ミラーリング)] 動作をクリックします。
3. [Mirror (ミラーリング)] 画面で [View computer folder (コンピュータ・フォルダの表示)] をクリックします。

ファイル参照用のウィンドウが開き、フォルダ内のファイルが表示されます。

ドライブ・フォルダの内容を表示

バックアップ・ドライブ上のミラー・フォルダの内容を表示するには、次の手順を実行します。

1. Toolkitを開きます。
2. メインメニューで [Mirror (ミラーリング)] 動作をクリックします。
3. [Mirror (ミラーリング)] 画面で [View drive folder (ドライブ・フォルダの表示)] をクリックします。

ファイル参照用のウィンドウが開き、フォルダ内のファイルが表示されます。

ミラーリング計画の編集

1. Toolkitを開きます。
2. メインメニューで [Mirror (ミラーリング)] 動作をクリックします。
3. [Mirror (ミラーリング)] 画面で [Edit plan (計画の編集)] をクリックします。
4. ミラーフォルダを保存するコンピュータ上の新しい場所を選択します。
5. [Create (作成)] をクリックします。

これで新しいミラーフォルダが、ストレージ・デバイス上のミラーフォルダと同期されるようになります。



Toolkitが新しいミラーフォルダを作成しても、過去のフォルダは削除されません。過去のフォルダはストレージ・デバイスとは同期されなくなり、削除することもできます。

ミラーリング計画の削除

1. Toolkitを開きます。
2. メインメニューで [\[Mirror \(ミラーリング\)\]](#) 動作をクリックします。
3. [\[Mirror \(ミラーリング\)\]](#) 画面で [\[Delete plan \(計画を削除\)\]](#) をクリックします。
4. [\[Delete \(削除\)\]](#) をクリックして確定します。



Toolkitはミラーリング計画を削除しますが、コンピュータまたはストレージ・デバイス上のミラーフォルダは削除しません。フォルダの中身もそのまま残ります。

レポートの表示

ミラーリング動作のレポートを確認することができます。レポートには、同期されなかったファイルの一覧、詳細、ホスト・コンピュータとバックアップ・ドライブのファイルパスが表示されます。

1. Toolkitを開きます。
2. メインメニューで [\[Mirror \(ミラーリング\)\]](#) 動作をクリックします。
3. [\[Mirror \(ミラーリング\)\]](#) 画面で [\[View report \(レポートの表示\)\]](#) をクリックします。

以前のバージョンのToolkit (Windows 7、8、8.1)

旧バージョンのToolkitでは、[\[Mirror \(ミラーリング\)\]](#) 画面のメニューから、[\[Pause \(一時停止\)\]](#)/[\[Resume \(再開\)\]](#)、[\[Edit \(編集\)\]](#)、[\[Delete \(削除\)\]](#)、[\[Report \(レポート\)\]](#) の各動作にアクセスします。

1. Toolkitを開きます。
2. メインメニューで [\[Mirror \(ミラーリング\)\]](#) 動作をクリックします。
3. [\[Mirror \(ミラーリング\)\]](#) 画面で、[\[More \(その他\)\]](#) アイコン (⋮) をクリックします。
4. 動作を選択します。

Toolkitのミラーリングについてのよくある質問

[\[Toolkitのミラーリングに関するよくある質問\]](#) をクリックすると、ミラーフォルダの作成や使用に関するよくある質問の答えが表示されます。

バックアップ動作（Windowsのみ）

Backup（バックアップ）動作を行うと、コンテンツ、ストレージデバイス、希望のスケジュールに合わせてカスタマイズプランを作成することができます。[Backup（バックアップ）] はWindows版 Toolkitでご使用いただけます。



このユーザ・マニュアルの手順は、最新バージョンのToolkitを使用するユーザを対象にしています。以前のバージョンのToolkitは、ユーザ・インターフェイスがやや異なる場合があります。「[以前のバージョンのToolkit（Windows 7、8、8.1）](#)」を参照してください。

ファイルのタイプと手順

Toolkitではデータのバックアップを作成できますが、プログラム・ファイル、アプリケーション・データ、一時ファイル、その他のタイプのシステムファイルやフォルダはバックアップからは除外されます。



詳しくは、[\[Toolkitのバックアップから除外されるファイルパスと拡張子\]](#) をクリックしてください。

Toolkitはまず、バックアップ計画が作成されると、選択したデータのフルバックアップをストレージ・デバイスに保存します。初回以降のバックアップでは、前回のバックアップ以降に変更されたデータのみを保存します。これにより、スケジュール設定バックアップに必要な時間と容量を節約することができます。

バックアップ・ファイルの保存場所の設定

Toolkitが外付けストレージ・デバイスにファイルをバックアップすると、ドライブ上に以下のフォルダ階層が作成されます。

X:\Toolkit\Backup\名前\c\



Xは、コンピュータが外付けドライブに割り当てたドライブ・レターを表します。ドライブ・レターはドライブによって異なり、コンピュータに接続されているドライブの台数によって変わることがあります。名前はコンピュータの名前を表します。

バックアップ・ファイルは通常、\Toolkit\Backup\名前\c\フォルダ内の元のユーザーフォルダのコピーにありますが、これはバックアップ計画の設定によって異なる場合があります。

アーカイブ・ファイルの表示

コンピュータ上のファイルを更新すると、バックアップ計画が過去のバージョンを以下のアーカイブ・フォルダにコピーします。

X:\Toolkit\Backup\名前\C_Archive\



Xは、コンピュータが外付けドライブに割り当てたドライブ・レターを表します。ドライブ・レターはドライブによって異なり、コンピュータに接続されているドライブの台数によって変わることがあります。名前はコンピュータの名前を表します。

クイックバックアップの設定

数回クリックするだけで、個人用ファイルを手軽にバックアップすることができます。個人用ファイルには、Windows上のシステムファイル以外のファイルがすべて含まれます。

1. Toolkitを開きます。
2. メインメニューで [\[Backup \(バックアップ\)\]](#) をクリックします。
3. [\[Back Up Now \(今すぐバックアップ\)\]](#) をクリックします。



[\[Back Up Now \(今すぐバックアップ\)\]](#) のオプションは、すでにバックアップ計画を作成している場合は使用できません。

Toolkitは個人用ファイルをバックアップして、新しいバックアップ計画を作成します。この計画は、コンピュータにファイルが追加されると、あるいは変更されると、毎回個人用ファイルをストレージ・デバイスに継続的にバックアップするよう設定されます。自動作成された計画の詳細は変更することができます。詳しくは、[バックアップ計画の編集](#)をご覧ください。

カスタム・バックアップ計画の作成

カスタム・バックアップ計画では、バックアップのコンテンツ、デバイス、スケジュールを選択できます。

1. Toolkitを開きます。
2. メインメニューで [\[Backup \(バックアップ\)\]](#) 動作をクリックします。
3. [\[Custom \(カスタム\)\]](#) をクリックします。
4. [バックアップ計画の設定](#) の手順を実行します。

バックアップ計画の設定

Toolkitにバックアップ計画の設定に必要な手順が順に表示されます。

手順1: コンテンツの選択

バックアップに含めるコンテンツを選択する方法は、基本と詳細の2種類があります。

基本

1. システムファイル以外のコンテンツを含めるには、以下のチェックボックスをクリックします:

すべてのファイル	Windowsルートドライブ
個人用ファイル	ユーザーフォルダ
ドキュメント	ドキュメントライブラリ
音楽	音楽ライブラリ
写真	写真ライブラリ
ビデオ	ビデオライブラリ

2. コンテンツの選択が完了したら、[Next (次へ)] をクリックします。

詳細

1. より細かくコンテンツを選択するには、[Advanced (詳細)] をクリックします。
2. サイドバーとコンテンツ・ウィンドウを使って、手動でフォルダを選択します。

複数の項目の選択

キーボードのShiftまたはCtrlキーを使って右側の項目を複数選択（ハイライト）することができます。

リストの複数の項目を選択するには:

1. 最初のフォルダをクリックします。
2. キーボードのShiftキーを押したまま、
3. 最後のフォルダをクリックします。

コンピュータ上の連続しない別々の場所にある複数の項目を選択する方法:

1. フォルダをクリックします。
2. キーボードのCtrlキーを押したまま、
3. 続いて他のフォルダをクリックします。

コンテンツの選択が完了したら、[Next (次へ)] をクリックします。

手順2: バックアップ先ドライブの選択

1. バックアップ先のドライブをクリックします。
2. ドライブを選択したら、[Next (次へ)] をクリックします。

手順3: バックアップのスケジュール設定

1. 期間をクリックしてバックアップの頻度を設定します。
2. 例えば具体的な時間や曜日を選んで、選択した期間の設定を調整することができます。
3. [Start Backup (バックアップを開始)] をクリックします。

変更が保存されます。以下の条件が満たされている場合、Toolkitはスケジュールに従って選択したフォルダをバックアップします:

- PCがオンになっている。
- ストレージ・デバイスがPCに接続されている。
- Toolkitが実行されている。

！ 常時バックアップ計画では、コンテンツの追加や削除、ファイルの更新が行われる度に毎回ファイルが保存されます。常時バックアップは、特定データの復元には便利ですが、システム・リソースを多く使用します。

バックアップ計画の一時停止/再開

バックアップ計画を一時停止するには、以下を実行します。

1. Toolkitを開きます。
2. メイン・メニューで、[Backup (バックアップ)] 動作の [Pause (一時停止)] アイコンをクリックします。

または、[Backup (バックアップ)] 動作をクリックして [Backup (バックアップ)] 画面に移動し、[Pause (一時停止)] をクリックします。

バックアップ計画を再開するには、以下を実行します。

1. Toolkitを開きます。
2. メイン・メニューで、[Backup (バックアップ)] 動作の [Play (再開)] アイコンをクリックします。

または、[Backup (バックアップ)] 動作をクリックして [Backup (バックアップ)] 画面に移動し、[Resume (再開)] をクリックします。

バックアップ計画の編集

バックアップ計画のコンテンツ、バックアップ先、スケジュールを変更できます。

1. Toolkitを開きます。
2. メインメニューで [\[Backup \(バックアップ\)\]](#) 動作をクリックします。
3. [\[Backup \(バックアップ\)\]](#) 画面で [\[Edit plan \(計画の編集\)\]](#) をクリックします。
4. [バックアップ計画の設定](#)の手順を実行します。

バックアップ計画の削除

1. Toolkitを開きます。
2. メインメニューで [\[Backup \(バックアップ\)\]](#) 動作をクリックします。
3. [\[Backup \(バックアップ\)\]](#) 画面で [\[Delete plan \(計画を削除\)\]](#) をクリックします。
4. (オプション) デバイスにバックアップされたすべてのファイルを削除する場合は、[\[Delete all files backed up the device \(デバイスにバックアップされたすべてのファイルを削除する\)\]](#) の横のチェックボックスを選択します。
5. [\[Delete \(削除\)\]](#) をクリックして確定します。

レポートの表示

バックアップ動作のレポートを確認することができます。レポートには、バックアップされなかったファイルと一部しかバックアップされなかったファイルの一覧、詳細、ホスト・コンピュータとバックアップ・ドライブのファイルパスが表示されます。

1. Toolkitを開きます。
2. メインメニューで [\[Backup \(バックアップ\)\]](#) 動作をクリックします。
3. [\[Backup \(バックアップ\)\]](#) 画面で [\[View report \(レポートの表示\)\]](#) をクリックします。

以前のバージョンのToolkit (Windows 7、8、8.1)

旧バージョンのToolkitでは、[\[Backup \(バックアップ\)\]](#) 画面のメニューから、[\[Pause \(一時停止\)\]](#)/[\[Resume \(再開\)\]](#)、[\[Edit \(編集\)\]](#)、[\[Delete \(削除\)\]](#)、[\[Report \(レポート\)\]](#) の各動作にアクセスします。

1. Toolkitを開きます。
2. メイン・メニューで [\[Backup \(バックアップ\)\]](#) 動作をクリックします。
3. [\[Backup \(バックアップ\)\]](#) 画面で [\[More \(その他\)\]](#) アイコン [...](#) をクリックします。
4. 動作を選択します。

Toolkitのバックアップについてのよくある質問

[\[Toolkitのバックアップに関するよくある質問\]](#) をクリックすると、バックアップ計画の作成や使用に関するよくある質問の答えが表示されます。

復元操作（Windowsのみ）

Toolkitバックアップ・プランから、外付けドライブにバックアップしておいたファイルを復元することができます。

1. Toolkitを開きます。
2. メインメニューで **[Restore（復元）]** をクリックします。
3. 復元したいバックアップ・プランを選択します。
4. **[Restore（復元）]** の画面で、復元したいバージョンを選択します。 **[Next（次へ）]** をクリックします。
5. デフォルトでは、Toolkitは元あった場所にファイルを復元します。（別の場所にファイルを復元したい場合は、サイドバーとコンテンツ・ウィンドウを使ってフォルダを選択します。 **[Restore to Original Location（元の場所に復元）]** をクリックすると、いつでもデフォルトの場所にリセットできます。）
6. **[Restore（復元）]** をクリックします。

Toolkitが選択したバージョンからファイルを復元します。外付けドライブにバックアップされている他のバージョンのファイルは復元されません。



他のフォルダまたはコンピュータへのファイルの復元

別のフォルダまたはコンピュータにファイルを復元する場合、復元先のファイル構造が元の場所のファイル構造と一致しないことがあります。ファイルパスが一致しない場合、Toolkitは新しい復元先に元のフォルダ構造を再作成します。フォルダの構造によっては、復元されたファイルを適切な場所に手動で移動させる必要がある場合があります。

Sync Plus動作

Sync Plus動作では、コンピュータとドライブ間でデータが継続的に同期されます。これにより、それらの両方でファイルを利用できるようになります。

同期の維持	PCまたはMacにあるフォルダをドライブと同期します。片方のデバイスでファイルを追加、編集、または削除すると、常にもう片方のデバイスのファイルが自動的にアップデートされます。
削除済みファイルのアーカイブ	削除したファイルが、ドライブ上のアーカイブ・フォルダに自動的にコピーされます。



一部のタイプのデータは同期されません。「[同期から除外されるファイルとフォルダ](#)」を参照してください。

Sync Plusを利用できるプレミアム製品は次のとおりです。

対応デバイス	製品サポート・ページ	ユーザーマニュアル
LaCie 1big Dock	製品	資料
LaCie 1big Dock SSD Pro	製品	資料
LaCie Rugged SSD Pro	製品	資料
Seagate Barracuda Fast SSD	製品	資料
Seagate FireCuda Gaming SSD	製品	資料
Seagate One Touch SSD	製品	資料
Seagate Ultra Touch SSD	製品	資料



このユーザ・マニュアルの手順は、最新バージョンのToolkitを使用するユーザを対象にしています。以前のバージョンのToolkitは、ユーザ・インターフェイスがやや異なる場合があります。「[以前のバージョンのToolkit \(Windows 7、8、8.1\)](#)」を参照してください。

クイック同期の設定

PCまたはMacのユーザ・フォルダを同期する計画をすばやく作成できます。クイック同期の動作は次

のとおりです。

- PCまたはMacのユーザ・フォルダとドライブを同期するデフォルト計画が作成されます。
- 削除したファイルとフォルダが、ドライブ上のアーカイブ・フォルダに自動的にコピーされます。

クイック同期を作成するには、次の手順を実行します。

1. Toolkitを開きます。
2. メイン・メニューで [\[Sync Plus\]](#) 動作をクリックします。
3. [\[Sync \(同期\)\]](#) をクリックします。
4. 設定を確認して [\[Got It \(はい、わかりました\)\]](#) をクリックします。

カスタムSync Plus計画の作成

カスタムSync Plus計画では次の操作を行えます。

- ドライブと同期するフォルダを選択する。
- 同期とアーカイブの設定をカスタマイズする。

カスタムSync Plus計画を設定するには、次の手順を実行します。

1. Toolkitを開きます。
2. メイン・メニューで [\[Sync Plus\]](#) 動作をクリックします。
3. [\[Sync Plus\]](#) 画面で [\[Create a new Sync Plus plan \(Sync Plus計画の新規作成\)\]](#) をクリックします。
4. [\[Next \(次へ\)\]](#) をクリックします。
5. 同期するコンピュータ・フォルダを選択します。 [\[Next \(次へ\)\]](#) をクリックします。
6. 選択したフォルダに対し、ドライブ上の同期先を選択します。 [\[Next \(次へ\)\]](#) をクリックします。
7. 切り替えスイッチをクリックして、次の設定を変更します。

設定	オン	オフ
双方向の同期	コンピュータのファイルへの変更はドライブと同期され、ドライブのファイルへの変更はコンピュータに同期されます。	<ul style="list-style-type: none">• コンピュータ上のファイルへの変更が、ドライブと同期されます。ただし、ドライブ上のファイルへの変更は、コンピュータと同期されません。• コンピュータから削除したファイルは、ドライブからは削除されません。• 双方向の同期を無効にすると、削除済みファイルのアーカイブオプションを利用できません。

削除済みファイルのアーカイブ

コンピュータから削除したファイルとフォルダが、アーカイブ・フォルダに保存されます。双方向の同期を無効にすると、削除済みファイルのアーカイブオプションを利用できません。

削除したファイルとフォルダは保存されません。双方向の同期を無効にすると、削除済みファイルのアーカイブオプションを利用できません。

8. **[Create (作成)]** をクリックします。
9. 設定を確認して **[Got it (はい、わかりました)]** をクリックします。

Sync Plus計画の一時停止/再開

Sync Plus計画を一時停止するには、次の手順を実行します。

1. Toolkitを開きます。
2. メイン・メニューで、**[Sync Plus]** 動作の **[Pause (一時停止)]** アイコンをクリックします。

または、**[Sync Plus]** 動作をクリックして **[Sync Plus]** 画面に移動し、**Pause (一時停止)** をクリックします。

Sync Plus計画を再開するには、次の手順を実行します。

1. Toolkitを開きます。
2. メイン・メニューで、**[Sync Plus]** 動作の **[Play (開始)]** アイコンをクリックします。

または、**[Sync Plus]** 動作をクリックして **[Sync Plus]** 画面に移動し、**Resume (再開)** をクリックします。

同期済みフォルダとアーカイブの表示

コンピュータ上の同期済みフォルダとアーカイブを表示するには、次の手順を実行します。

1. Toolkitを開きます。
2. メイン・メニューで **[Sync Plus]** 動作をクリックします。
3. **[Sync Plus]** 画面で **View computer folder (コンピュータ・フォルダの表示)** をクリックします。

ファイル参照用のウィンドウが開き、フォルダとその内容が表示されます。

Sync Plus計画の編集

Sync Plus計画を編集するには、次の手順を実行します。

1. Toolkitを開きます。
2. メイン・メニューで **[Sync Plus]** 動作をクリックします。
3. **[Sync Plus]** 画面で **Edit plan (計画の編集)** をクリックします。

4. 同期元と同期先のフォルダを選択し、必要に応じて同期とアーカイブの設定を変更します。

ファイルの復元

アーカイブからファイルを復元するには、次の手順を実行します。

1. Toolkitを開きます。
2. メイン・メニューで [\[Sync Plus\]](#) 動作をクリックします。
3. [\[Sync Plus\]](#) 画面で [Restore files](#) (ファイルの復元)] をクリックします。
4. ファイル参照用のウィンドウが開き、データをアーカイブ・フォルダから別の場所にコピーできるようになります。

Sync Plus計画の削除

Sync Plus計画を削除するには、次の手順を実行します。

1. Toolkitを開きます。
2. メイン・メニューで [\[Sync Plus\]](#) 動作をクリックします。
3. [\[Sync Plus\]](#) 画面で [Delete plan](#) (計画を削除)] をクリックします。
4. [\[Agree](#) (同意する)] をクリックして確定します。

同期から除外されるファイルとフォルダ

プログラム・ファイル、アプリケーション・データ、一時ファイル、その他のタイプのシステム・ファイルとフォルダは同期されません。同期から除外されるデータの全リストについては、[ナレッジ・ベースの記事](#)を参照してください。

以前のバージョンのToolkit (Windows 7、8、8.1)

旧バージョンのToolkitでは、[\[Sync Plus\]](#) 画面のメニューから、[\[Pause](#) (一時停止)]/[\[Resume](#) (再開)]、[\[Edit](#) (編集)]、[\[Restore](#) (復元)]、[\[Delete](#) (削除)] の各動作にアクセスします。

1. Toolkitを開きます。
2. メイン・メニューで [\[Sync Plus\]](#) 動作をクリックします。
3. [\[Sync Plus\]](#) 画面で [\[More](#) (その他)] アイコン [...](#) をクリックします。
4. 動作を選択します。

Seagate Secure

Seagate Secure動作では、SeagateとLaCieの自己暗号化ドライブのセキュリティ管理を行うことができます。Toolkitを使って、セキュリティを有効化し、パスワードを作成することで、AES 256ビット暗号化技術でデータを確実に保護することができます。

対応デバイス	製品サポート・ページ	ユーザーマニュアル
LaCie Mobile Drive Secure	製品	資料
LaCie Mobile SSD Secure	製品	資料
LaCie Rugged RAID Shuttle	製品	資料
LaCie Rugged Secure	製品	資料
LaCie Rugged SSD	製品	資料
Seagate Backup Plus Ultra Touch	製品	資料
Seagate One Touch with Hub	製品	資料
Seagate One Touch with Password	製品	資料



このユーザー・マニュアルの手順は、最新バージョンのToolkitを使用するユーザーを対象にしています。以前のバージョンのToolkitは、ユーザー・インターフェイスがやや異なる場合があります。「[以前のバージョンのToolkit \(Windows 7、8、8.1\)](#)」を参照してください。

Toolkitによるセキュリティの有効化

Toolkitは自己暗号化ドライブのセキュリティを有効化するために必要です。

1. コンピュータにデバイスを接続します。
2. Toolkitを開きます。
3. メイン・メニューで [\[Seagate Secure\]](#) 動作をクリックします。
4. [\[Enable \(有効化\)\]](#) をクリックします。



Mac®

ドライバをインストールする必要があります。プロンプトが表示されたら、Finderを使ってドライブを取り外して、コンピュータからケーブルを取り外します。Toolkitがシステム拡張子を有効化するようにプロンプトします。[Next (次へ)] をクリックして、[Security & Privacy System Preferences (セキュリティとプライバシーシステムの設定)] に進み、「Seagate Technologies LLC」によって署名されたシステム拡張子を有効化します。

Apple Silicon Macユーザーの場合

[Security & Privacy (セキュリティとプライバシー)] でシステム拡張子を有効化するためにはセキュリティの強度を下げる必要があります。詳しくは、「[Apple Silicon Macで起動ディスクのセキュリティ設定を変更する方法](#)」をご覧ください。

- パスワードは復元できないため、覚えておける、または安全に保管しておけるパスワードを作成するように促す通知が表示されます。チェックボックスをクックして通知の内容に同意し、[Next (次へ)] をクリックします。
- デバイスのパッケージに入っている冊子に記載されている8桁のセキュアコード (SID) を入力します。セキュアコードは大文字と小文字が区別されます。[Next (次へ)] をクリックします。



冊子が見当たらない場合は、セキュアコード (SID) は、ドライブのエンクロージャに貼り付けられているステッカーにも記載されています。LaCie Rugged SecureおよびRugged RAID Shuttleドライブに関する注記 - ステッカーは保護バンパーの下に貼り付けられています。

- [Next (次へ)] をクリックします。



Incorrect code (コードが正しくない) という内容のエラーが発生した場合、**Incorrect code** (コードが正しくない) という内容のエラーが発生し、それ以上セキュアコード (SID) を入力できない場合は、ハードディスク・ドライブを安全に取り出し、コンピュータから取り外します。正しいSIDを確認して、もう一度ドライブを接続して試してください。このエラーは、過去にデバイスのセキュリティを有効化して、そのとき作成したパスワードが引き続き有効になっている場合にも発生することがあります。ドライブに対して最後に作成したパスワードを入力してみてください。

- すべてのコンピュータでドライブのロックを解除するために使用するパスワードを作成します。上の欄に覚えやすく、推測されにくいパスワードを入力します。作成するパスワードは大文字と小文字が区別されます。下の欄にも同じパスワードを確認のためにもう一度入力して、[Next (次へ)] をクリックします。



パスワードをメモして安全な場所に保管しておいてください。携帯電話と同様に、SeagateまたはLaCieでもこのパスワードは復元できません。

9. (オプション) パスワードのヒントの作成。パスワードを忘れてしまった場合、思い出するためのヒントを確認することができます。パスワードのヒントを入力して、[Next (次へ)] をクリックします。



個人情報を使用するとデータ・セキュリティが制限されるため、自分にしかわからないヒントを使用してください。

パスワードリセットキーの設定 (オプション)

現在のパスワードを忘れてしまった場合に、ドライブ上のデータを保持しながらパスワードをリセットするためのキーを設定することができます。

入力を求められたら、Seagate/LaCieのアカウント情報を入力して、[Sign In (サインイン)] をクリックします。Seagate/LaCieのアカウントをお持ちでない場合は、[Create Account (アカウントを作る)] をクリックしてウェブページを開いてアカウントを作成してください。新規作成したアカウントを確認して、有効化する必要があります。

パスワードリセットキーを作成したら、今後パスワードをリセットする際に必要になった場合に備えて、Seagate/LaCieのアカウント情報をメモしておいてください。詳しくは、「[パスワードリセットキーの設定](#)」および「[パスワードリセットキーの使用](#)」をご覧ください。

10. [Done (完了)] をクリックします。

ドライブのロック解除

ドライブ上のデータにアクセスするには、Toolkitアプリで作成したパスワードを入力する必要があります。Toolkitを使ってパスワードを入力できます。Toolkitがコンピュータにインストールされていない場合は、ドライブ上にあるご使用のオペレーティング・システムに適したUnlock Driveアプリを実行できます。

Toolkitを使ったパスワードの入力

Toolkitがインストールされたコンピュータにドライブを接続すると、毎回パスワードの入力を求められます。

1. ダイアログで、セキュリティを有効化した際に作成したパスワードを入力します。



作成したパスワードは大文字と小文字が区別されます。

2. [Unlock (ロック解除)] をクリックします。

ドライブを接続してもプロンプトが自動的に表示されない場合は:

1. Toolkitを開きます。
2. メイン・メニューで [\[Seagate Secure\]](#) 動作をクリックします。
3. [\[Seagate Secure\]](#) 画面で [\[Unlock \(ロック解除\)\]](#) をクリックします。
4. 入力を求められたら、パスワードを入力して、[\[Unlock \(ロック解除\)\]](#) をクリックします。

Unlock Driveアプリを使ったパスワードの入力

Toolkitがインストールされていないコンピュータにデバイスを接続する場合、ドライブ上にあるUnlock Driveアプリを使ってパスワードを入力することができます。

1. ファイルエクスプローラやFinderなどのファイルマネージャーを使って、[\[DriveLocked\]](#) ボリュームを開きます。
2. [\[Unlock Drive for Windows \(Windows向けにドライブのロックを解除\)\]](#) または [\[Unlock Drive for Mac \(Mac向けにドライブのロックを解除\)\]](#) をクリックします。

macOS 10.13以降



Mac®

ドライバをインストールする必要があります。プロンプトが表示されたら、Finderを使ってドライブを取り外して、コンピュータからケーブルを取り外します。Toolkitがシステム拡張子を有効化するようにプロンプトします。[\[Next \(次へ\)\]](#) をクリックして、[\[Security & Privacy System Preferences \(セキュリティとプライバシーシステムの設定\)\]](#) に進み、「Seagate Technologies LLC」によって署名されたシステム拡張子を有効化します。

Apple Silicon Macユーザーの場合

[\[Security & Privacy \(セキュリティとプライバシー\)\]](#) でシステム拡張子を有効化するためにはセキュリティの強度を下げる必要があります。詳しくは、「[Apple Silicon Macで起動ディスクのセキュリティ設定を変更する方法](#)」をご覧ください。

3. ドライブのために作成したパスワードを入力します。



作成したパスワードは大文字と小文字が区別されます。

4. [\[OK\]](#) をクリックします。



Unlockerアプリは、大容量(12TB以上)バージョンのSeagate One Touch with Hubではご使用いただけません。ドライブのロックを解除するにはToolkitアプリを使用する必要があります。

パスワード入力の試行回数の上限を超えた場合

パスワード入力の連続試行回数の上限を超えると、ドライブが一時的に停止されます。ドライブを取り外して接続し直し、正しいパスワードでもう一度試してください。

ドライブのロック

ドライブをコンピュータから取り外すと、ドライブは必ず自動でロックされます。ドライブを再接続した際にパスワードを入力する必要があります。

コンピュータに接続されている間に手動でドライブをロックすることもできます。

1. Toolkitを開きます。
2. メイン・メニューで [\[Seagate Secure\]](#) 動作をクリックします。
3. [\[Seagate Secure\]](#) 画面で [\[Lock \(ロック\)\]](#) をクリックします。
4. ダイアログでパスワードを入力して、[\[Lock \(ロック\)\]](#) をクリックします。



作成したパスワードは大文字と小文字が区別されます。

パスワードの変更

Toolkitを使ってパスワードを変更します。

1. Toolkitを開きます。
2. メイン・メニューで [\[Seagate Secure\]](#) 動作をクリックします。
3. [\[Seagate Secure\]](#) 画面で [\[Change Password \(パスワードの変更\)\]](#) をクリックします。
4. これから作成するパスワードは復元できないことを知らせる通知が表示されます。[\[Next \(次へ\)\]](#) をクリックします。
5. 上の欄に現在のパスワードを入力します。
6. 真ん中の欄に新しいパスワードを入力して、確認のために下の欄にもう一度同じ新しいパスワードを入力します。
7. (オプション) パスワードのヒントを作成して、パスワードを忘れてしまった場合に確認することができます。指定の欄にパスワードのヒントを入力します。



個人情報を使用するとデータ・セキュリティが制限されるため、自分にしかわからないヒントを使用してください。

8. [\[Next \(次へ\)\]](#) をクリックします。
9. これでドライブの新しいパスワードが設定されました。[\[Done \(完了\)\]](#) をクリックします。

パスワード・リセット・キーの設定

現在のパスワードを忘れてしまった場合に、ドライブ上のデータを保持しながらパスワードをリセッ

トするためのキーを設定することができます。

要件

- 現在のパスワードを忘れてしまう前にパスワードリセットキーを設定しておきます。
- パスワード・リセット・キーを設定するためには、Seagate/LaCieのアカウントが必要になります。新規アカウントを作成するか、既存アカウントにサインインします。インターネット接続が必要です。新規ユーザーは新規作成したアカウントの確認と有効化を行う必要があります。
- 複数のユーザーが使用するドライブの場合 - 管理者だけがパスワードリセットキーを設定して使用できます。
- パスワード・キー機能は、Seagate Secureのバージョン3.0以上でご利用いただけます。Toolkitのバージョンの確認方法：
 1. ホーム画面で、[その他]メニューをクリックして、[Settings (設定)]を選択します。
 2. [About (バージョン情報)]をクリックします



重要 - パスワード・リセット・キーは保険と同様に、必要になる前に設定しておいて初めて役に立つものです。パスワード・リセット・キーを設定していない状態でパスワードを忘れてしまった場合、ドライブを工場出荷時の設定にリセットするしか方法はありません。ドライブを工場出荷時の設定にリセットすると、ドライブからすべてのデータが消えます。

セキュリティを有効化した後のパスワードリセットキーの設定

ドライブのセキュリティを有効化すると、パスワード・リセット・キーを設定するようプロンプトが表示されますが、すでにセキュリティを有効化している場合でも、[Seagate Secure] 動作画面でパスワード・リセット・キーを設定できます。

1. Toolkitを開きます。
2. メイン・メニューで [Seagate Secure] 動作をクリックします。
3. [Seagate Secure] 画面で [Reset Key (キーをリセット)] をクリックします。
4. [Set Up (設定)] をクリックします。
5. 現在のSeagate Secure管理者パスワードを入力します。[Continue (続行)] をクリックします。
6. PSIDの入力を求められます。これは、デバイスのパッケージに入っている冊子に記載されている32桁のリセットコードです。32桁のPSIDを入力します。(Toolkitが自動的に小文字を大文字に変換します。)

PSIDが記載された冊子が見当たらない場合

ハードディスク・ドライブのステッカーにもPSIDが記載されています。LaCie Rugged SecureおよびRugged RAID Shuttleドライブに関する注記 - ステッカーは保護バンパーの下に貼り付けられています。

7. 入力を求められたら、Seagate/LaCieのアカウント情報を入力して、[Sign In (サインイン)] をクリックします。インターネット接続が必要です。



Seagate/LaCieのアカウントをお持ちでない場合は、[[Create Account](#) (アカウントを作成する)] をクリックしてウェブページを開いてアカウントを作成してください。新規作成したアカウントを確認して、有効化する必要があります。

パスワードリセットキーを作成したら、今後パスワードをリセットする際に必要になった場合に備えて、Seagate/LaCieのアカウント情報をメモしておいてください。

パスワード・リセット・キーの使用

過去にパスワードキーを設定している場合は、それを使ってドライブのパスワードをリセットすることができます。

1. パスワード入力画面で、[[Forgot password?](#) (パスワードをお忘れの場合)] をクリックします。
2. PSIDの入力を求められます。これは、デバイスのパッケージに入っている冊子に記載されている32桁のリセットコードです。32桁のPSIDを入力します。(Toolkitが自動的に小文字を大文字に変換します。)

PSIDが記載された冊子が見当たらない場合

ハードディスク・ドライブのステッカーにもPSIDが記載されています。LaCie Rugged SecureおよびRugged RAID Shuttleドライブに関する注記 - ステッカーは保護バンパーの下に貼り付けられています。

3. 入力を求められたら、Seagate/LaCieのアカウント情報を入力して、[[Sign In](#) (サインイン)] をクリックします。インターネット接続が必要です。
4. [Password Reset (パスワードリセット)] 画面で新しいパスワードを入力し、その下の欄にもう一度確認のために同じパスワードを入力します。
5. (オプション) パスワードのヒントを作成して、パスワードをまた忘れてしまった場合に確認することができます。指定の欄にパスワードのヒントを入力します。
6. (オプション) [[Trusted computer](#) (信頼済みのコンピュータ)] チェックボックスをクリックして、Toolkitが[信頼済みのコンピュータにドライブが接続されたら自動的にドライブのロックを解除する](#)ように設定することができます。
7. [[Next](#) (次へ)] をクリックします。
8. [[Done](#) (完了)] をクリックします。

信頼済みのコンピュータ

「信頼済み」として指定したコンピュータにドライブを接続すると、自動的にロック解除されるようにToolkitを設定することもできます。この設定は、他の人が使用しないコンピュータのみで使用してください。他のコンピュータに接続する場合は、ドライブのロックを解除するためにパスワードが必要となります。

1. Toolkitがインストールされているコンピュータにドライブを接続します。
2. 入力を求められたら、セキュリティを有効化した際に作成したパスワードを入力します。



作成したパスワードは大文字と小文字が区別されます。

3. [Trust this computer (このコンピュータを信頼する)] のチェックボックスにチェックを入れます。
4. [Continue (続行)] をクリックします。

ドライブを接続してもプロンプトが自動的に表示されない場合は:

1. Toolkitを開きます。
2. メイン・メニューで [Seagate Secure] 動作をクリックします。
3. [Seagate Secure] 画面で [Unlock (ロック解除)] をクリックします。
4. 入力を求められたらパスワードを入力します。
5. [Trust this computer (このコンピュータを信頼する)] のチェックボックスにチェックを入れます。
6. [Continue (続行)] をクリックします。

接続したドライブがすでにロック解除されている場合は、以下の手順に従ってください。

1. Toolkitを開きます。
2. メイン・メニューで [Seagate Secure] 動作をクリックします。
3. [Seagate Secure] 画面で [Trusted Computer (信頼済みのコンピュータ)] をクリックします。
4. [Trust this computer (このコンピュータを信頼する)] のトグルをクリックして設定を有効化します。
5. 入力を求められたらパスワードを入力して、[Continue (続行)] をクリックします。
6. [Done (完了)] をクリックします。

信頼済みのコンピュータのステータスの削除

コンピュータから信頼済みのコンピュータのステータスを削除するには:

1. 信頼済みのコンピュータにドライブを接続します。
2. Toolkitを開きます。
3. メイン・メニューで [Seagate Secure] 動作をクリックします。
4. [Seagate Secure] 画面で [Trusted Computer (信頼済みのコンピュータ)] をクリックします。
5. [Trust this computer (このコンピュータを信頼する)] のトグルをクリックして設定を無効化します。
6. [Done (完了)] をクリックします。

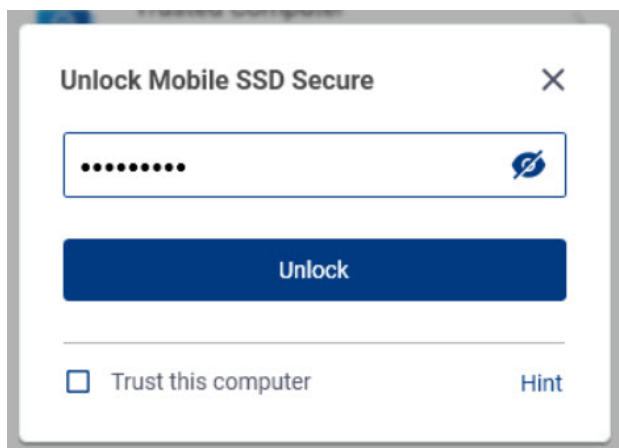
マルチユーザー・アクセス

二人目のユーザーに対して、ストレージ・デバイスへのセキュア・アクセスを提供することができます。

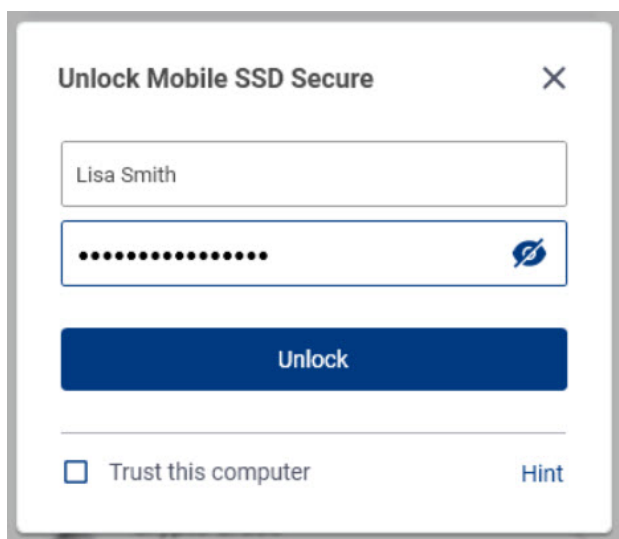


マルチユーザー機能は、大容量 (12TB以上) バージョンのSeagate One Touch with Hubではご使用いただけません。

他のユーザーを追加すると、コンピュータにセキュア・ドライブを接続した際のロック解除のプロンプトが変更されます。一人のユーザーだけが有効化されている場合、セキュア・ドライブではドライブの所有者、すなわち「管理者」向けに一つだけパスワードが必要になります。



マルチユーザーが有効化されている場合、ユーザーがドライブのロックを解除するためにはユーザー名とパスワードが必要になります。



セキュア・ドライブの所有者のユーザー名は「Admin」で、同じパスワードを引き続き入力できます。二人目のユーザーにユーザー名と初期パスワードを提供します。二人目のユーザーはドライブのコンテンツにはアクセスできますが、セキュリティ操作は一切実行できません。

セキュリティ操作	管理者	ユーザー
パスワードの変更	✓	✓
パスワード・リセット・キー	✓	✗
セキュリティの無効化	✓	✗
信頼済みのコンピュータ	✓	✓

マルチユーザーの管理	✓	✗
Crypto-Erase	✓	✗
リセット	PSIDを持っている人なら誰でもドライブをリセットできます	

1. Toolkitを開きます。
2. メイン・メニューで [\[Seagate Secure\]](#) 動作をクリックします。
3. [\[Seagate Secure\]](#) 画面で [\[Manage Multi-User \(マルチユーザの管理\)\]](#) をクリックします。
4. [\[Multi-user \(マルチユーザー\)\]](#) のラジオ・ボタンをクリックして、[\[Next \(次へ\)\]](#) をクリックします。
5. 管理者パスワードを確認のためにもう一度入力するよう求められます。パスワードを入力して、[\[Next \(次へ\)\]](#) をクリックします。
6. [\[Add User \(ユーザーの追加\)\]](#) をクリックします。ダイアログボックスが表示されます。
7. 二人目のユーザーのユーザー名を入力します。これは、二人目のユーザーがドライブのロックを解除する際に入力するユーザー名です。
8. 二人目のユーザーのパスワードを入力します。これは、二人目のユーザーがドライブのロックを解除する際に入力するパスワードです。覚えやすく、推測されにくいパスワードを選択してください。作成するパスワードは大文字と小文字が区別されます。
9. 同じパスワードを確認のためにもう一度入力します。
10. (オプション) パスワードのヒントの作成。二人目のユーザー向けに作成したパスワードを忘れてしまった場合に思い出せるようにヒントを作成することができます。



個人情報を使用するとデータ・セキュリティが制限されるため、自分にしかわからないヒントを使用してください。

11. [\[Save \(保存\)\]](#) をクリックします。

二人目のユーザーの編集

管理者は、二人目のユーザーのユーザー名とパスワードを編集できます。

1. Toolkitを開きます。
2. メイン・メニューで [\[Seagate Secure\]](#) 動作をクリックします。
3. [\[Seagate Secure\]](#) 画面で [\[Manage Multi-User \(マルチユーザの管理\)\]](#) をクリックします。
4. 入力を求められたら管理者パスワードを入力して、[\[Continue \(続行\)\]](#) をクリックします。
5. ユーザーリストで、[\[その他\] アイコン \(...\)](#) をクリックして、[\[Edit \(編集\)\]](#) を選択します。
6. ユーザーの情報を編集して、[\[Save \(保存\)\]](#) をクリックします。
7. [\[Done \(完了\)\]](#) をクリックします。

二人目のユーザーの無効化

管理者は二人目のユーザーを無効化して、後からもう一度有効化する必要が生じたときのために情報をそのまま保持しておくことができます。

1. Toolkitを開きます。

2. メイン・メニューで [\[Seagate Secure\]](#) 動作をクリックします。
3. [\[Seagate Secure\]](#) 画面で [\[Manage Multi-User \(マルチユーザの管理\)\]](#) をクリックします。
4. 入力を求められたら管理者パスワードを入力して、[\[Continue \(続行\)\]](#) をクリックします。
5. ユーザーリストで、[\[その他\] アイコン \(...\)](#) をクリックして、[\[Disable \(無効化\)\]](#) を選択します。
6. プロンプトが表示されたら、[\[Disable \(無効化\)\]](#) をクリックして確定します。
7. [\[Done \(完了\)\]](#) をクリックします。

二人目のユーザーの削除

管理者は二人目のユーザーを削除できます。

1. Toolkitを開きます。
2. メイン・メニューで [\[Seagate Secure\]](#) 動作をクリックします。
3. [\[Seagate Secure\]](#) 画面で [\[Manage Multi-User \(マルチユーザの管理\)\]](#) をクリックします。
4. ユーザーリストで、[\[その他\] アイコン \(...\)](#) をクリックして、[\[Delete \(削除\)\]](#) を選択します。
5. プロンプトが表示されたら、[\[Delete \(削除\)\]](#) をクリックして確定します。
6. [\[Done \(完了\)\]](#) をクリックします。

セキュリティの無効化

デバイスのロックを解除するためのパスワードが必要ないようにセキュリティを無効化することができます。この場合、パスワード保護のないセキュリティ対策の取られていないドライブとして機能します。作成したパスワードを使って、後からいつでもセキュリティを再有効化することができます。

1. Toolkitを開きます。
2. メイン・メニューで [\[Seagate Secure\]](#) 動作をクリックします。
3. [\[Seagate Secure\]](#) 画面で [\[Disable Security \(セキュリティを無効化\)\]](#) をクリックします。
4. セキュリティが無効化されることを示す通知が表示されます。パスワードを入力して確認したら、[\[Continue \(続行\)\]](#) をクリックします。

セキュリティの再有効化

セキュリティを無効化した場合、作成したパスワードを使ってもう一度有効化することができます。

1. Toolkitを開きます。
2. メイン・メニューで [\[Seagate Secure\]](#) 動作をクリックします。
3. [\[Seagate Secure\]](#) 画面で [\[Enable Security \(セキュリティの有効化\)\]](#) をクリックします。
4. 最初にセキュリティを有効化したときに作成したパスワードを入力します。



作成したパスワードは大文字と小文字が区別されます。

5. [\[Continue \(続行\)\]](#) をクリックします。

ドライブの暗号消去

暗号消去とは、セキュリティ設定を維持した状態で、ドライブに保存されているすべてのデータを完全に削除し、二度と復元できないようにする方法です。パスワードは変わりません。

1. Toolkitを開きます。
2. メイン・メニューで [Seagate Secure] 動作をクリックします。
3. [Seagate Secure] 画面で [Crypto Erase (暗号消去)] をクリックします。
4. ドライブ上のすべてのデータが削除されるが、セキュリティ設定は維持されることを知らせる通知が表示されます。[Erase (消去)] をクリックします。
5. ダイアログボックスが表示されます。パスワードを入力して確認したら、[Continue (続行)] をクリックします。



管理者ユーザーとしてコンピュータにログインしている場合は、Toolkitに対してこの変更を許可することを確認します。標準ユーザーとしてログインしている場合は、コンピュータのシステム・パスワードを入力して暗号消去の実行を確定します。



Mac®

システムがToolkitに対してこの変更を許可するよう求めてきます。コンピュータのシステム・パスワードを入力して暗号消去の実行を確定します。

ドライブを工場出荷時の設定にリセットする

工場出荷時の設定へのリセットを行うと、ドライブ上のすべてのデータやパスワードを含むすべてのセキュリティ設定が削除され、ドライブが最初の工場出荷時の設定に戻ります。

1. Toolkitを開きます。
2. メイン・メニューで [Seagate Secure] 動作をクリックします。
3. [Seagate Secure] 画面で [Factory Reset (工場出荷時状態へのリセット)] をクリックします。
4. ドライブ上のすべてのデータとセキュリティ設定が削除されることを知らせる通知が表示されます。[Reset (リセット)] をクリックします。
5. PSIDの入力を求められます。これは、デバイスのパッケージに入っている冊子に記載されている32桁のリセットコードです。32桁のPSIDを入力します。(Toolkitが自動的に小文字を大文字に変換します。)

PSIDが記載された冊子が見当たらない場合

ハードディスク・ドライブのステッカーにもPSIDが記載されています。LaCie Rugged SecureおよびRugged RAID Shuttleドライブに関する注記 - ステッカーは保護バンパーの下に貼り付けられています。

6. [Continue (続行)] をクリックします。



管理者ユーザーとしてコンピュータにログインしている場合は、Toolkitに対してこの変更を許可することを確認します。標準ユーザーとしてログインしている場合は、コンピュータのシステム・パスワードを入力して工場出荷時状態へのリセットの実行を確定

します。



Mac®

システムがToolkitに対してこの変更を許可するよう求めてきます。コンピュータのシステム・パスワードを入力して工場出荷時状態へのリセットの実行を確定します。

以前のバージョンのToolkit（Windows 7、8、8.1）

旧バージョンのToolkitでは、[Seagate Secure] 画面のメニューから、セキュリティ関連の全動作にアクセスします。

1. Toolkitを開きます。
2. メイン・メニューで [\[Seagate Secure\]](#) 動作をクリックします。
3. [Seagate Secure] 画面で [More (その他)] アイコン (...) をクリックします。
4. 動作を選択します。

インポート

インポート機能を使って、SeagateまたはLaCieの対応デバイスの内蔵カードリーダーに挿入されているメモリカードからすばやくファイルをインポートすることができます。メモリカードを差し込むと、Toolkitが自動でファイルをデバイスにコピーするため、フォルダを開いてファイルをドラッグする必要がありません。

インポート機能はまた、SeagateまたはLaCieの対応デバイスのハブポートに接続されているUSBドライブからの自動ファイルコピーにも対応しています。ハブポートにUSBフラッシュ・ドライブまたはストレージ・デバイスを接続すると、Toolkitがハブドライブにファイルをバックアップします。

Toolkitの他の機能とは違い、インポートはホーム画面上に動作として表示されず、コピーが自動で行われるか、ドライブが検出されるとプロンプト表示されます。

対応デバイス	カードのインポート	USBのインポート	製品サポート	ユーザーマニュアル
LaCie 1big Dock	○	×	製品	資料
LaCie 1big Dock SSD Pro	○	×	製品	資料
LaCie Rugged RAID Pro	○	×	製品	資料
Seagate Backup Plus Hub	×	○	製品	資料
Seagate DJI Fly Drive	○	×	製品	資料
Seagate One Touch Hub	×	○	製品	資料

Import（インポート）機能のインストール

Toolkitはコンピュータにすでにインストールされているはずです。「[Toolkitの使用開始](#)」をご覧ください。

1. Toolkitをインストールしたら、SeagateまたはLaCieの対応デバイスをコンピュータに接続します。
2. Toolkitが自動的に対応デバイスを検出し、Toolkitにインポート機能を追加します。

メモリカードからのインポート

1. SeagateまたはLaCieドライブの内蔵カードリーダーにファイルが入ったメモリカードを差し込みま

す。Toolkitが差し込まれたカードのコンテンツを自動でストレージ・ドライブにインポートしたいかどうか尋ねてきます。

2. メモリカードから自動でファイルをコピーしたい場合は、[**Import** (インポート)] をクリックして確定します。後で [インポート] したい場合は、[**Skip** (スキップ)] をクリックします。

[インポート] を有効化すると、Toolkitは内蔵カードリーダーに差し込まれたメモリカードのファイルを自動でコピーします。

例えば次のような特定の状況では、ファイルが重複してコピーされる場合があります：

- メモリカードを取り外して、ドライブからカードを削除して、その後またカードを差し込んだ場合。
- メモリカードが差し込まれた状態のまま、ドライブを取り外して再接続した場合。
- デバイスが接続され、メモリカードが差し込まれた状態のままコンピュータを再起動した場合。
- デバイスが接続され、メモリカードが差し込まれた状態のままToolkitを終了して再開した場合。

メモリカードのインポートの有効化/無効化

デフォルトではToolkitは、SeagateまたはLaCieドライブの内蔵カードリーダーに挿入されているメモリカードのファイルをインポートしますが、必要に応じてメモリカードのインポートを無効化することもできます。

1. Toolkitのホーム画面で、[その他] アイコンをクリックして、[**Settings** (設定)] を選択します。
2. [**Import content of inserted memory cards** (挿入されているメモリカードのコンテンツをインポート)] の横にあるトグルスイッチをクリックします。

メモリカードの増分インポートの有効化/無効化

デフォルトではToolkitは、SeagateまたはLaCieドライブの内蔵カードリーダーに挿入されているメモリカードのファイルをコピーしますが、増分インポートを無効化することで、ストレージ容量と時間を削減することもできます。増分インポートでは、新しいファイルだけがコピーされ、同じメモリカードから以前インポートされたファイルは無視されます。

1. Toolkitのホーム画面で、[その他] アイコンをクリックして、[**Settings** (設定)] を選択します。
2. [**Incremental copy of inserted memory cards** (挿入されているメモリカードの増分インポート)] の横にあるトグルスイッチをクリックします。

USBデバイスからのインポート

1. USBフラッシュ・ドライブまたはUSB外付けストレージ・デバイスをハブドライブのハブポートに接続します。Toolkitが、接続したドライブの中身をインポートしたいか尋ねてきます。
2. USBドライブからファイルをコピーしたい場合は、[**Import** (インポート)] をクリックして確定します。接続したドライブからファイルをインポートしたくない場合は、[**Skip** (スキップ)] をクリックします。



同じUSBデバイスをハブポートに接続する度に、Toolkitは毎回ドライブからファイルをインポートするようにプロンプトします。同じUSBデバイスからの2回目以降のインポートは増分となり、ドライブから新しいファイルだけがコピーされ、同じUSBデバイスから以前インポートされたファイルは無視されます。

USBデバイスのインポート・プロンプトの有効化/無効化

デフォルトでは、Toolkitは、USBハブポートに接続されたデバイスのコンテンツをインポートするようにプロンプトします。接続したUSBデバイスのインポート・プロンプトを無効化することもできます。

1. Toolkitのホーム画面で、[その他] アイコンをクリックして、[Settings (設定)] を選択します。
2. [Import contents of drives connected to hub ports (ハブポートに接続されているドライブのコンテンツをインポート)] の横にあるトグルスイッチをクリックします。

インポート済みのファイルの保存場所

Toolkitはすべてのインポートに関して、以下のフォルダを作成します：ドライブ名 > Toolkit > Imported Files



ドライブ名は、Seagateストレージ・デバイスの名前です。

フォルダの命名規則

インポート中、Toolkitはインポートされたファイルが含まれる一意の名前を付けたファイルを追加します。以下の命名規則が使用されます：

YYYY-MM-DD_HH.MM.SS_カード名

YYYY	年
MM	月
DD	日
HH	時間 (24時間表示)
MM	分
SS	秒
カード名	メモリカードの名前

Toolkitのインポートに関するよくある質問

質問: インポート機能では、ドライブへのインポートが完了したら、メモ리카ードの中身は消えるのですか？

答え: いいえ。インポートしてもメモ리카ードからファイルは削除されません。

質問: 外付けのカードリーダーでもインポートを使えますか？

答え: いいえ。インポート機能は、内蔵カードリーダー搭載の一部のSeagateとLaCieのデバイス専用として設計されています。上記の[対応デバイス](#)をご覧ください。

RAIDセットアップ

Toolkitを使用すると、互換性のあるドライブのRAIDレベルやフォーマットを簡単に設定できます。

対応デバイス	製品サポート・ページ	ユーザーマニュアル
LaCie 2big Dock	製品	資料
LaCie 2big RAID	製品	資料
LaCie Rugged RAID Pro	製品	資料
LaCie Rugged RAID Shuttle	製品	資料

RAIDの説明

RAIDは、Redundant Array of Independent Disks（独立ディスク冗長アレイ）を表します。RAIDにはアレイという単語が含まれていて、この2つの用語は同じ意味で使用されることがよくあります。アレイとは、1つのボリュームとしてオペレーティング・システムに提示される、2つ以上の物理ディスクの組み合わせです。

ディスクの組み合わせは、RAIDレベルと呼ばれるさまざまなRAID構成になります。選択するRAIDレベルは、どのストレージ属性が最も重要かによって異なります。

容量	保存できるデータの合計量
パフォーマンス	データがコピーされる速度
保護	データが失われるまでに故障が発生できるディスクの数

Toolkit RAIDでは、2台のドライブを持つ、互換性のあるLaCieおよびSeagateのRAIDストレージ・デバイスを構成することができます。使用可能なレベルは、RAID 0およびRAID 1です。

RAID 0—両方のドライブでデータは複製されません。両方のドライブの全容量を固有のデータの保存に使用できるため、転送が高速になり保存容量が大きくなります。ただし、RAID 0にはデータ保護が欠けています。そのため、1台のドライブに障害が発生すると、アレイのすべてのデータが失われます。

RAID 1—アレイの各ディスクでデータは複製されます。1台のドライブに障害が発生しても、データは他のドライブに残っています。ただし、それぞれのドライブに同じデータを書き込むため、コストがかかります。また、データのコピーに時間がかかり、全体のストレージ容量は50%減ります。RAID 1は、データの保護がパフォーマンスや総ストレージ容量よりも重要な場合に向いています。

まとめると、各RAIDレベルにはそれぞれ、以下のようなメリットがあります。

RAIDレベル	容量	パフォーマンス	保護	工場出荷時のデフォルト設定
RAID 0	100%	優	なし	○
RAID 1	50%	良	優	×

RAIDとデータ保護

RAID 1では、1台のドライブが故障した場合にデータを保護できますが、すべてのケースのハードウェアの故障やデータ破損に対する完全なデータ保護は保証できません。非常事態によるデータの損失を避けるため、複数のデバイスにファイルを保管することをお勧めします。たとえば、1つをRAIDデバイスに保持し、もう1つを次のいずれかに保持します。

- 他のダイレクト・アタッチド・ストレージ (DAS) デバイス
- ネットワーク・アタッチド・ストレージ (NAS) デバイス
- いずれかの形式のリムーバブル・ストレージまたはアーカイブ・ストレージ

SeagateまたはLaCieハードディスク・ドライブまたはハードディスク・ドライブ・システムの使用中に生じたデータのいかなる損失、改悪、破壊は、お客様ご自身の責任です。いかなる場合であっても、SeagateまたはLaCieは、データの回復または修復について責任を負いません。

ToolkitによるRAIDレベルとフォーマットの設定

- ! **フォーマットを行うと、ストレージ・デバイスの全データが消去されます。** ストレージ・デバイスの全データをバックアップしてから以下の手順を実行することを強く推奨します。ストレージ・デバイスのフォーマット、パーティション、または使用において失ったデータについては、SeagateとLaCieは一切責任を負いません。

1. デバイスの設定とToolkitのインストールについては、製品ユーザー・マニュアルの指示に従ってください。
2. Toolkitのホーム画面で、[RAID] アクティビティをクリックします。
3. [Set Up (設定)] をクリックします。
4. RAIDレベルを選択します。

RAID 0	デバイスをRAID 0として構成します。ストレージ容量全体をファイル用に使用でき、データ転送も高速です。ただし、RAID 0には重要な機能であるデータ保護が欠けています。そのためハードディスク・ドライブに障害が発生すると、アレイのすべてのデータが失われます。
RAID 1	デバイスをRAID 1として構成します。各ファイルがアレイの両方のドライブに保存されます。このため、1台のドライブが故障してもデータは使用できます。ただし、ストレージ容量は50%減少し、データ転送もRAID 0ほど高速ではありません。

5. [Continue (続行)] をクリックします。
6. ドライブのフォーマットとして以下のいずれかを選択します。

Macの場合	
WindowsとmacOSの互換性	ドライブをexFATでフォーマットします。デバイスは、macOSとWindowsの両方で使用できます。ただし、転送速度はどちらのオペレーティング・システム用にも最適化されていません
macOSのパフォーマンス	ドライブをHFS+でフォーマットします。デバイスはmacOS用に最適化されているため、転送速度が向上します。しかし、Windowsとの互換性を確保するには、サードパーティのユーティリティが必要になります。

Windowsの場合	
WindowsとmacOSの互換性	ドライブをexFATでフォーマットします。デバイスは、macOSとWindowsの両方で使用できます。ただし、転送速度はどちらのオペレーティング・システム用にも最適化されていません
Windowsのパフォーマンス	ドライブをNTFSでフォーマットします。デバイスはWindows用に最適化されているため、転送速度が向上します。しかし、macOSとの互換性を確保するには、サードパーティのユーティリティが必要になります。

7. 画面に表示されるプロンプトに従って、プロセスを完了します。

RGBとステータスLEDの管理

Toolkitには、対応するストレージ・デバイスのRGBとステータスLEDの照明を管理するためのオプションがあります。

パターンRGB	プリセットパターンを選択するか、独自のカスタムパターンを作成することができます。仕事や遊びの雰囲気に適した色を選択します。
ステータスLED	ステータスLEDを有効化または無効化します。

ストレージ・デバイスのRGBおよびLEDのオプション:

対応デバイス	ステータスLED	単色RGB	レインボーRGB	製品サポート	ユーザーマニュアル
LaCie 1big Dock	○	×	×	製品	資料
LaCie 1big Dock SSD Pro	○	×	×	製品	資料
LaCie 2big RAID	○	×	×	製品	資料
Seagate FireCuda Gaming Dock	○	○	×	製品	資料
Seagate FireCuda Gaming Hard Drive	○	○	○	製品	資料
Seagate FireCuda Gaming Hub	○	○	○	製品	資料
Seagate FireCuda Gaming SSD	○	○	×	製品	資料

i Game Drive for Xbox - Toolkit RGBコントロールを使用して、製品のカラーパターンやアニメーションを設定できます。ご利用の製品での手順は、[Game Drive for Xboxスペシャル・エディション・ユーザーマニュアル](#)をご覧ください。

ステータスLEDの無効化/有効化

ステータスLEDはデフォルトで有効になっています。ストレージ・デバイスでステータスLEDを無効化/有効化するには:

1. Toolkitを開きます。

-
2. メイン・メニューで **[RGB]** または **[LED]** の動作をクリックします。
3. **[RGB Settings (RGB設定)]** または **[LED Settings (LED設定)]** の画面で **Status LED (ステータス LED)**] 切り替えスイッチをクリックします。

RGB照明パターンの編集

Toolkit RGB動作は、以下のRGBパターンコントロールをサポートしています。

- Razer Chroma
- FireCUDA RGB (デフォルト)

1台のデバイスで使用できるカラー管理オプションは1つだけです。

RGB動作へのアクセス

RGB動作にアクセスするには:

1. Toolkitを開きます。
2. メイン・メニューで **[RGB]** 動作をクリックします。
3. **[RGB Settings (RGB設定)]** 画面が表示されます。

RGB照明の設定

[RGB動作] 画面の上部にある以下の設定が、すべてのRGBパターンコントロールに適用されます。

- **Intensity (強度)** – スライダーを右方向に動かすとRGBの輝度が高くなり、左方向に動かすと輝度が下がります。
- **On (オン)** – スイッチをクリックするとRGBのオン/オフが切り替わります。
- **Sync Seagate compatible devices (対応のSeagateデバイスを同期)** – このオプションは、Seagate FireCUDA Gaming DockおよびSeagate FireCUDA Gaming SSDでのみ使用できます。対応するデバイスをPCに2台以上接続している場合は、スイッチをクリックしてすべてのデバイスでRGBパターンを同期できます。接続されているRGBストレージ・デバイスのいずれかで有効化すると、すべてのRGBがパターンの変更に合わせて動作します。(メインデバイスや予備デバイスはありません。最後に編集した設定が同期したすべてのデバイスのパターンを定義します。) このオプションを無効化すると、すべてのデバイスはデフォルトのカラーに戻ります。

Razer Synapse 3アプリを経由したRazer Chroma (Windowsのみ)

Razer Chromaは、多彩なパターンやゲーム内オプションを持つ、代表的なRGBビデオゲームソフトウェア管理プロトコルです。すべての管理はRazer Synapseアプリケーション内で行われます。Razer Synapseでは、構成済みのRGBパターンを使用するか、新しいパターンを作成できます。また、Razer Synapseは、ゲームプレイに合った色を有効化させるRGB照明対応の多数のビデオゲームをサポートしています。サポートされているパターンやゲーム、およびRazer Synapseアプリケーションをダウンロードする方法の詳細は、[Razer Synapseのウェブサイト](#)をご覧ください。

Razer Chromaの要件

- 最新バージョンのToolkit。
- Razer Synapse 3ソフトウェアがインストール済みで、実行中である必要があります。
- Chroma ConnectがRazer Synapse 3で有効化されている必要があります。



重要 - Toolkit RGBコントロールは、Razer Synapse 3以降に対応しています。Razer Synapse 2では、Seagate RGBストレージ・デバイスのLEDを制御することはできません。

Razer Chromaの使用

Razer ChromaをRGBコントローラとして使用するには、Razer Chromaの動作のカードで [Enable (有効化)] をクリックします。


FireCuda RGBアプリ

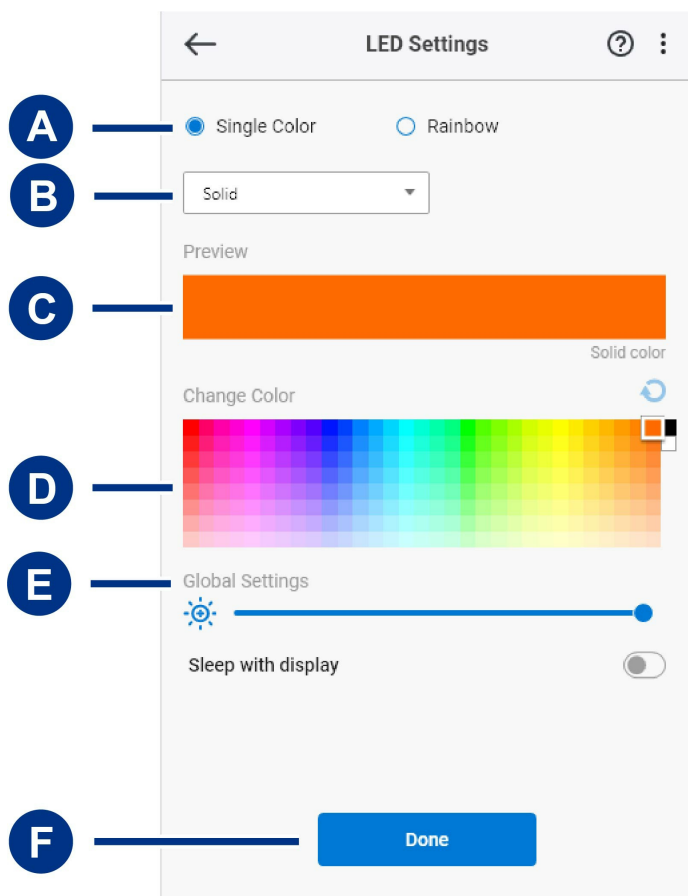
FireCuda RGBは、ネイティブのToolkit RGB管理プロトコルです。デフォルトでは有効になっていません。

LED設定の編集

LED設定では以下が可能です。

- 単色かレインボーパターンを選択する。
- 事前設定アニメーションかカスタムアニメーションを選択する。
- カラーやアニメーションの設定を変更する。
- グローバル設定を変更する。

LED設定を編集するには、FireCuda RGB動作で編集アイコン () をクリックします。[LED Settings (設定)] 画面が表示されます。



- A. **Select Pattern (パターンを選択)** - 作成するパターン（単色またはレインボーパターン）を選択します。単色のアニメーションでは、LED全体を使用して単色を表示します。レインボーパターンのアニメーションでは、LEDに最大6色が含まれます。レインボーは一部のドライブでは使用できません（以下の製品一覧をご確認ください）。
- B. **Select Animation (アニメーションの選択)** - 選択したパターンにアニメーションタイプを選びます。
- C. **Preview (プレビュー)** - 現在のパターン/アニメーションをプレビューしてアニメーション時間を指定します。
- D. **Change Color (色を変更)** - 適用するパターンの色を追加または削除します。
- E. **Global Settings (グローバル設定)** - グローバル設定を変更します。
- F. **Done (終了)** - パターン/アニメーションの設定に対する変更を確定します。

パターンを選択

単色またはレインボーパターンを選択します。アニメーションに使用できるカラーと表示時間の管理については、以下の表をご確認ください。

アニメーションを選択

以下のアニメーションタイプから選択します。

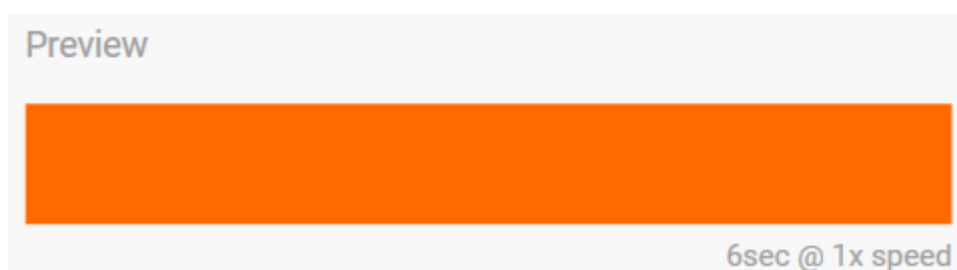
パターン	アニメーション	説明	アニメーション合計時間	ユーザーの選択

単色	連続	単色を連続的に表示します。	<ul style="list-style-type: none"> ● 100%色を保持 	<ul style="list-style-type: none"> ● 単色
単色	点滅	選択した単色を点灯および消灯します。	<ul style="list-style-type: none"> ● 6秒 <ul style="list-style-type: none"> ○ 50%色を保持 ○ 50%オフ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 単色
単色	ブリーズ	選択した単色のフェードのオン/オフが切り替わります。	<ul style="list-style-type: none"> ● ユーザーの選択 (デフォルト = 6秒) <ul style="list-style-type: none"> ○ 25%色を保持 ○ 25%フェードオフ ○ 25%オフ ○ 25%フェードオン 	<ul style="list-style-type: none"> ● 単色 ● アニメーション合計時間
単一単一	スペクトラム	6色 (赤、オレンジ、黄、緑、青、紫) で遷移します。	<ul style="list-style-type: none"> ● ユーザーの選択 (デフォルト = 18秒) <ul style="list-style-type: none"> ○ 50%色を保持 (1色あたり 8.33%) ○ 50%色を遷移 (遷移あたり 8.33%) 	<ul style="list-style-type: none"> ● アニメーション合計時間
単色	カスタム1	作成したカスタムパターンを表示します。	<ul style="list-style-type: none"> ● ユーザーの選択 (デフォルト = 6秒) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 複数の色 ● 色の保持時間 ● 色の遷移時間
単色	カスタム2	作成したカスタムパターンを表示します。	<ul style="list-style-type: none"> ● ユーザーの選択 (デフォルト = 21秒) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 複数の色 ● 色の保持時間 ● 色の遷移時間
単色	カスタム3	作成したカスタムパターンを表示します。	<ul style="list-style-type: none"> ● ユーザーの選択 (デフォルト = 2秒) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 複数の色 ● 色の保持時間 ● 色の遷移時間
レインボー	スタティック	レインボーパターンを連続的に表示します。	<ul style="list-style-type: none"> ● 100%色を保持 	<ul style="list-style-type: none"> ● -

レインボー	ブリーズ	レインボーパターンのフェードのオン/オフが切り替わります	<ul style="list-style-type: none"> ● 6秒 <ul style="list-style-type: none"> ○ 50%色を保持 	<ul style="list-style-type: none"> ● -
レインボー	点滅	レインボーパターンのオン/オフが切り替わります	<ul style="list-style-type: none"> ● 6秒 <ul style="list-style-type: none"> ○ 25%色を保持 ○ 25%フェードオフ ○ 25%オフ ○ 25%フェードオン 	<ul style="list-style-type: none"> ● -
レインボー	スライド	レインボーパターンは右から左にスライドします。	<ul style="list-style-type: none"> ● 1.8秒 	<ul style="list-style-type: none"> ● -
レインボー	カスタム1	カスタムレインボーパターンを連続的に表示します（スタティック）。	<ul style="list-style-type: none"> ● 100%色を保持 	<ul style="list-style-type: none"> ● 複数の色
レインボー	カスタム2	カスタムレインボーパターンのフェードのオン/オフが切り替わります	<ul style="list-style-type: none"> ● ユーザーの選択（デフォルト = 6秒） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 複数の色 ● 色の保持時間 ● 色の遷移時間
レインボー	カスタム3	カスタムレインボーパターンのオン/オフが切り替わります（点滅）。	<ul style="list-style-type: none"> ● ユーザーの選択（デフォルト = 3秒） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 複数の色 ● 色の保持時間

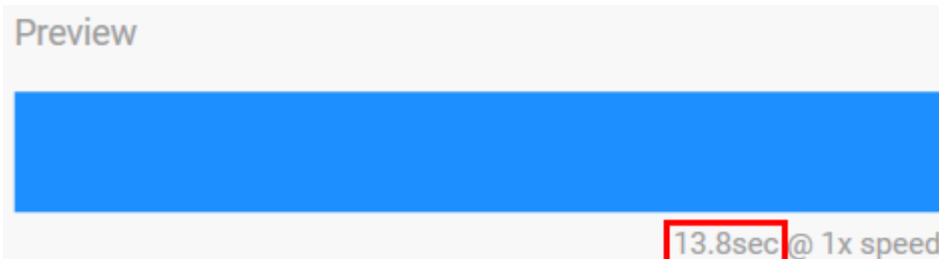
選択したパターン/アニメーションのプレビュー

[Preview（プレビュー）] ウィンドウでは、選択したパターン/アニメーションの色、遷移、表示時間を表示できます。

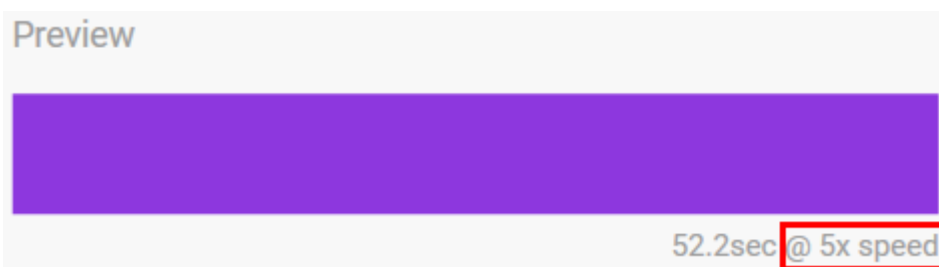


編集時、デバイスLEDはプレビューを反映します。

合計アニメーション時間（パターンの1サイクルが完了するまでの所要時間）が [プレビュー] ウィンドウの下に表示されます。

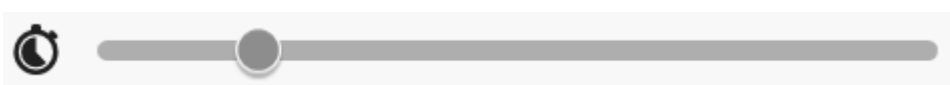


アニメーション合計時間（15 秒～）が長い場合は、自動的に [プレビュー] ウィンドウでのアニメーションの再生速度が速くなり、変更を短時間で確認できます。現在の再生速度がアニメーション合計時間の隣に表示されます。



表示時間のコントロール

一部のパターン/アニメーションは、アニメーションが再生される合計時間をコントロールできます。スライダーを使用してアニメーション合計時間を設定します。



アニメーション合計時間は、色の保持と遷移の間に均等に分割されます。

特定のカスタムパターン/アニメーションは、色の保持または遷移の設定をコントロールできます。

- A. 色の保持の設定 - 色の保持に使用される合計時間を表します。合計時間は、パターン内の色の数で分割されます。
- B. 色の遷移の設定 - 1つの色から次の色への遷移に使用される合計時間を表します。合計時間は、パターン内の遷移の数で分割されます。

スライドを使って色の保持および遷移時間をコントロールします。

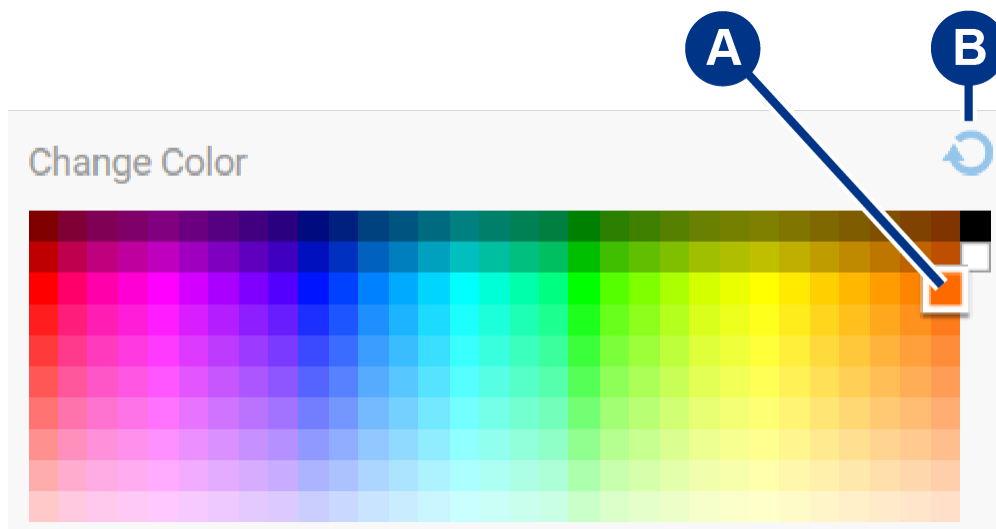


色の保持の設定と色の遷移の設定を合わせて、合計アニメーション時間が決まります。

色を変更

単色のプリセットアニメーション

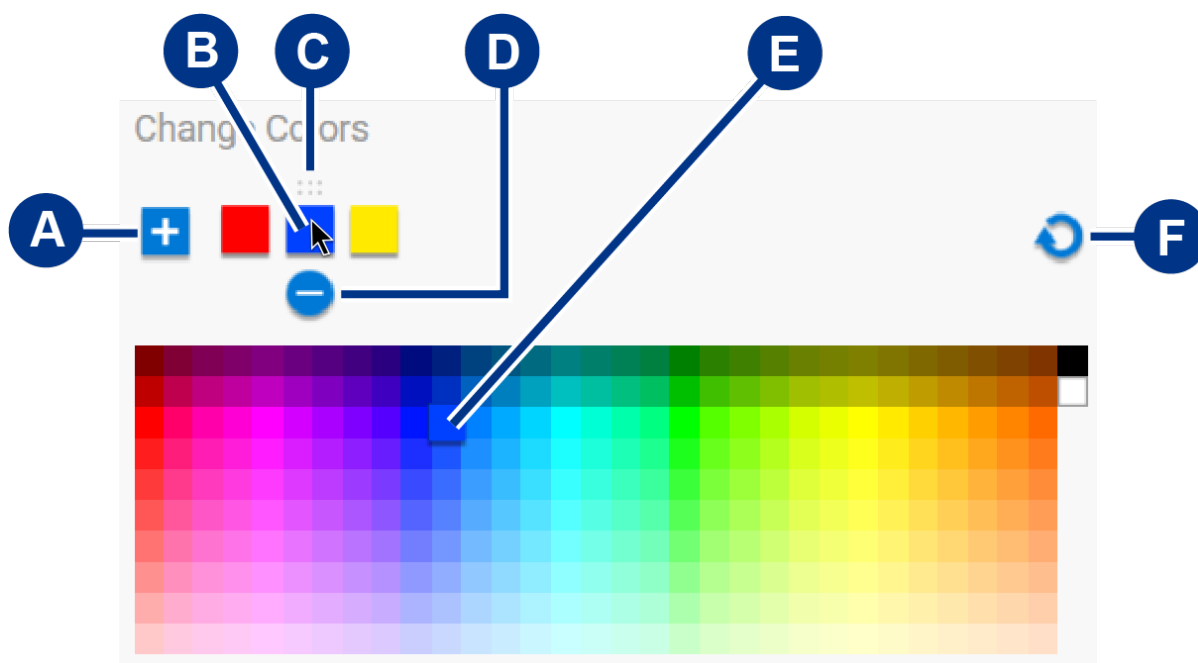
連続、点滅、ブリーズの各パターンで選択できる色は1つだけです。



- A. 色をクリックして選択します。
- B. リセット・アイコンをクリックして、デフォルトのオレンジの色を選択します。

単色およびレインボーのカスタムアニメーション

単色およびレインボーのカスタムアニメーションは、複数の色を指定できます。



- A. 追加アイコンをクリックしてシーケンスに色を追加します。最大6色まで追加できます。（単色のカスタムアニメーションのみに使用できます。レインボーカスタムアニメーションは常に6色必要です。）
- B. クリックしてシーケンスで色を選択します。
- C. グリッド・アイコンをクリックして、選択した色をシーケンスの別の位置にドラッグします。
- D. 削除アイコンをクリックして、選択した色をシーケンスから削除します。（単色のカスタムアニメーションのみに使用できます。レインボーカスタムアニメーションは常に6色必要です。）
- E. クリックして選択した色を変更します。

F. リセット・アイコンをクリックして、カスタムアニメーションのデフォルトの色と設定を選択します。

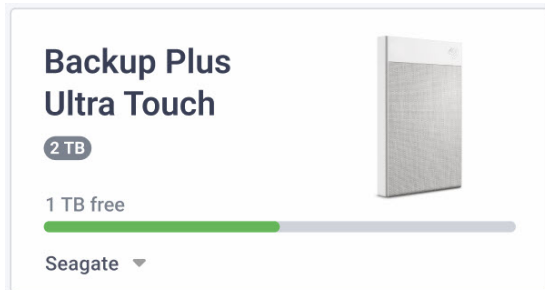
グローバル設定を変更

以下の設定を使用して、ストレージ・デバイスのパターンLEDを制御します。

設定	説明
輝度	スライダーを移動させてパターンLEDの輝度を制御します。デフォルト設定は100%です。
常にオン	有効にした場合、ストレージ・デバイスの電源が入っていると必ずパターンLEDが点灯します。[Always on (常にオン)]を有効にすると、[Sleep with display (スリープ時に消灯)]が無効になります。
スリープ時に消灯	有効にした場合、ホストコンピュータがスリープ状態であるときや電源が入っていないときには、パターンLEDは点灯しません。[スリープ時に消灯 (スリープ時に消灯)]を有効にすると [常にオン (常にオン)]は無効になります。

ドライブのステータス

ドライブのステータスが正常な場合、Toolkitのホーム画面上部にある容量バーに残りの容量が表示されます。



ドライブの故障

[Drive failed (ドライブの故障)] というステータスは、少なくとも1つの読み取り可能/書き込み可能なボリュームの空き容量が100 MB未満であること、または書き込みの失敗により容量オーバーとしてマークされていることを表します。

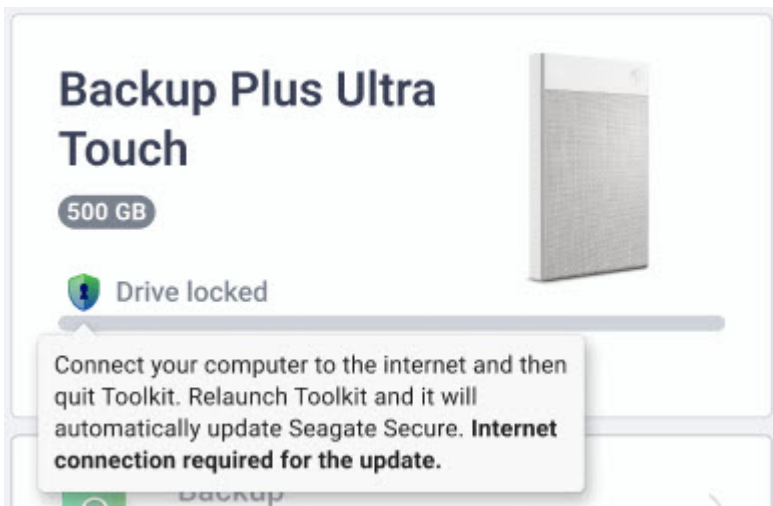
ドライブ容量オーバー

Backup、Mirror、Sync Plus、Importのアクティビティを完了するために十分なストレージ容量がない場合、[Drive full (ドライブ容量オーバー)] というステータスが表示されます。

ロック済みドライブ

ドライブでSeagate Secureが有効な状態で、かつドライブがロックされている場合、容量バーの上部に [Drive locked (ロック済みドライブ)] というステータスが表示されます。ドライブにアクセスするには、ドライブのロックを解除します。

まれに、ロック状態のドライブをロック解除する前に、ToolkitでSeagate Secureの更新が必要になる場合があります。



この場合、Toolkitを停止し、コンピュータにインターネットへのアクセスがあることを確認してください。Toolkitを再起動すると、Seagate Secureが自動的に更新されます。

ロック解除済みドライブ

ドライブでSeagate Secureが有効な状態で、かつドライブがロックされていない場合、使用可能な容量の隣に保護アイコンが表示されます。



読み取り可能なボリュームなし

オペレーティング・システムがドライブのフォーマットを読み取れないか、ドライブを読み取る権限を持っていません。一般的に、[No readable volumes (読み取り可能なボリュームなし)] を選ぶ理由には、次のようなものがあります。

- WindowsコンピュータのドライブがMac用にフォーマット化されている—コンピュータはWindowsでも、ドライブがMac (HFS+またはAPFS) 用にフォーマット化されている場合。Windowsは、HFS+またはAPFS用にフォーマット化されたドライブをネイティブに読み取りまたは書き込みすることはできません。
- Macコンピュータを使っていて、ドライブの権限がない—ドライブの [Sharing and Permissions (共有とアクセス権)] 設定でToolkitによるドライブの読み取りが許可されていない場合。
- WindowsまたはMacコンピュータを使っていて、ドライブがBitLockerで暗号化されている—ドライブ上のデータがBitLocker暗号化で保護されている場合。

トラブルシューティングについて詳しくは、ナレッジ・ベースの『[Toolkitで「No Readable Volumes \(ボリュームを読み込めません\)」と表示される](#)』の記事を参照してください。

読取り専用

Toolkitはドライブを読み取ることができますが、書き込みはできないため、Backup、Mirror、Sync

Plusなどのアクティビティを実行できません。一般的に、[Read only (読取り専用)] を選ぶ理由には、次のようなものがあります。

- MacコンピュータのドライブがWindows用にフォーマット化されている—コンピュータはMacでも、ドライブがWindows (NTFS) 用にフォーマット化されている場合。MacはNTFS用にフォーマット化されたドライブの読み取りはネイティブに実行可能ですが、書き込みはできません。
- Macコンピュータのセキュリティ設定—Macの [Security and Privacy (セキュリティとプライバシー)] 設定で、Toolkitによるドライブへの書き込みが許可されていない場合。

セキュリティ・ロックアウト

Seagate Secureが有効な状態でユーザーが誤ったパスワードを何度も入力すると、ドライブが一時的に無効になり、[Security lockout (セキュリティ・ロックアウト)] のステータスが表示されます。ドライブを一旦切断し再度接続してから、改めてパスワードを入力してください。

ストレージ・プール・デバイス

[Storage pool device (ストレージ・プール・デバイス)] のステータスは、ドライブ・ボリュームがWindowsストレージ・スペース・プールの一部であり、ToolkitがBackup、Mirror、Sync Plusなどのアクティビティを実行できないことを表します。ドライブをストレージ・スペース・プールから削除すると、アクティビティの実行に必要なアクセスがToolkitに付与されます。詳しくは、『[Windowsのストレージ・スペース](#)』を参照してください。

Time Machine

ドライブがTime Machineバックアップ・ディスクとして構成されている場合、[Time Machine] のステータスが表示されます。Toolkitは、Time Machine用に構成されたドライブ上でアクティビティを実行することはできません。

設定

アプリの設定やサポート、ドキュメント、ソフトウェア情報を表示するには、メインメニューで [その他] アイコン (...) をクリックして、[Settings (設定)] を選択します。

Toolkitアプリの設定

Start Toolkit automatically at startup (起動時にToolkitを自動で開く)	有効化されている場合、コンピュータを起動するとToolkitが自動で開きます。スケジュール設定バックアップを実行するには、Toolkitを開いておく必要があります。
Enable Detailed Logs (詳細ログを有効化)	有効化している場合、Toolkitがトラブルシューティングに使用できる詳細なログを記録します。SeagateまたはLaCieのサポート担当者より指示があった場合のみ有効化します。

インポートの設定

インポートの設定は、内蔵カードリーダーまたはハブポート搭載のSeagateおよびLaCieの対応ドライブでしかご利用いただけません。[対応デバイス一覧](#)のリンクをクリックしてください。

Import content of inserted memory cards (挿入したメモ리카ードのコンテンツのインポート)	<p>有効化されている場合、Toolkitは、SeagateまたはLaCieドライブの内蔵カードリーダーに挿入されているメモ리카ードのファイルを自動的にコピーします。</p> <p>無効化されている場合、Toolkitはカードスロットに挿入されているメモ리카ードの読み取りは行いません。</p>
---	---

<p>Incremental copy of inserted memory cards (挿入したメモリカードの増分コピー)</p>	<p>有効化されている場合、メモリカードのコピーは増分コピーとなります。つまり、新しいファイルだけをコピーして、同じメモリカードから以前インポートされたファイルは無視します。</p> <p>無効化されている場合、ファイルが過去にコピーされているかどうかにかかわらず、カードスロットに挿入されているメモリカードから毎回すべてのファイルをコピーします。</p>
<p>Import contents of drives connected to hub ports (ハブポートに接続されているドライブのコンテンツのインポート)</p>	<p>有効化されている場合、外付けドライブのハブポートに接続されているUSBストレージ・デバイスからファイルをコピーするよう求められます。</p> <p>無効化されている場合、USBストレージ・デバイスからファイルをコピーするよう求められません。</p>

Toolkitのアップデート

アプリが開いている状態で、コンピュータがインターネットに接続されている場合、Toolkitはアップデートの確認を行います。Toolkitは以下の場合に自動でアップデートの確認を行います。

- コンピュータを再起動して、Toolkitを再開したとき
- Toolkitを一度終了して開き直したとき
- 前回の確認から24時間経過したとき

情報

[[About](#) (情報)] をクリックすると、

- Toolkitアプリと操作のバージョントラブルシューティングの際、カスタマーサポート担当者がToolkitアプリと機能に関連するバージョン番号をお伺いすることがあります
- SeagateおよびLaCieページのリンク
 - 利用条件
 - プライバシー方針
 - ソフトウェアに関する法律上の注意点
 - エンドユーザー使用許諾契約書

最適化

多くのSeagateとLaCieのドライブは、MacとWindowsの両方のコンピュータに対応するように、exFATで事前にフォーマットされています。一方の種類のみでドライブを使用する場合は、そのオペレーティング・システムのネイティブ・ファイル・システム（Windowsの場合はNTFS、Macの場合はHFS+）でドライブをフォーマットすることによってファイル・コピーのパフォーマンスを最適化できます。2つの方法でパフォーマンスを最適化できます。

Toolkit による最適化	数回クリックするだけで最適なパフォーマンスを引き出せるようにドライブをフォーマットします。最初に Toolkit をドライブにセットアップするときのみ可能です。
手動でのフォーマット	[ディスクの管理] (Windows) または [ディスクユーティリティ] (Mac) を使用して、ネイティブフォーマットではない形式でドライブをフォーマットします。

ファイル・システム・フォーマットについて

NTFS: Windowsのネイティブ・ファイル・システムです。macOSではNTFSボリュームを読み込むことはできますが、ネイティブに書き込むことはできません。

Mac OS拡張 (HFS+): macOSにネイティブなハードディスク・ドライブ・ファイル・システムです。WindowsはHFS+（ジャーナリング）ボリュームをネイティブに読み書きすることができません。ドライブをTime Machineで使用する場合は、このフォーマットが最適です。

exFAT: MacとWindowsの両方に対応しています。exFATは、ジャーナリングされたファイル・システムではないため、エラーが発生した場合、あるいはドライブをコンピュータから不適切に取り外した場合に、データ破損のリスクが高くなります。

Toolkit による最適化

Toolkit は、お使いのストレージのニーズに適したドライブ形式を最初に選択できるように設計されています。

1. デバイスの設定と Toolkit のインストールについては、製品ユーザー マニュアルの指示に従ってください。
2. Windows と macOS の両方に対応するようにドライブをフォーマットするか、または、お使いのコンピュータのオペレーティング システムで最適なパフォーマンスを引き出せるようにフォーマットするかを選択するためのプロンプトが Toolkit で表示されます。
3. その他の画面の指示に従って設定を完了します。

！
• **フォーマットを行うと、ストレージ・デバイスの全データが消去されます。**ストレージ・デバイスの全データをバックアップしてから以下の手順を実行することを強く推奨します。ストレージ・デバイスのフォーマット、パーティション、または使用において失ったデータについては、SeagateとLaCieは一切責任を負いません。

ToolkitおよびThunderboltデイジー・チェーン接続

現在Toolkitは、デイジー・チェーン接続に対応していません。

- Toolkitには、コンピュータに直接接続されているドライブだけが表示され、デイジー・チェーン接続されている他のドライブは表示されません。
- 一覧のドライブは、Thunderboltデイジー・チェーンのすべてのドライブと同じ容量を示します。

詳しくは、Seagateサポートのこの[ナレッジ・ベースの記事](#)をご覧ください。